

344
154

久留米案内
新行社發行



始

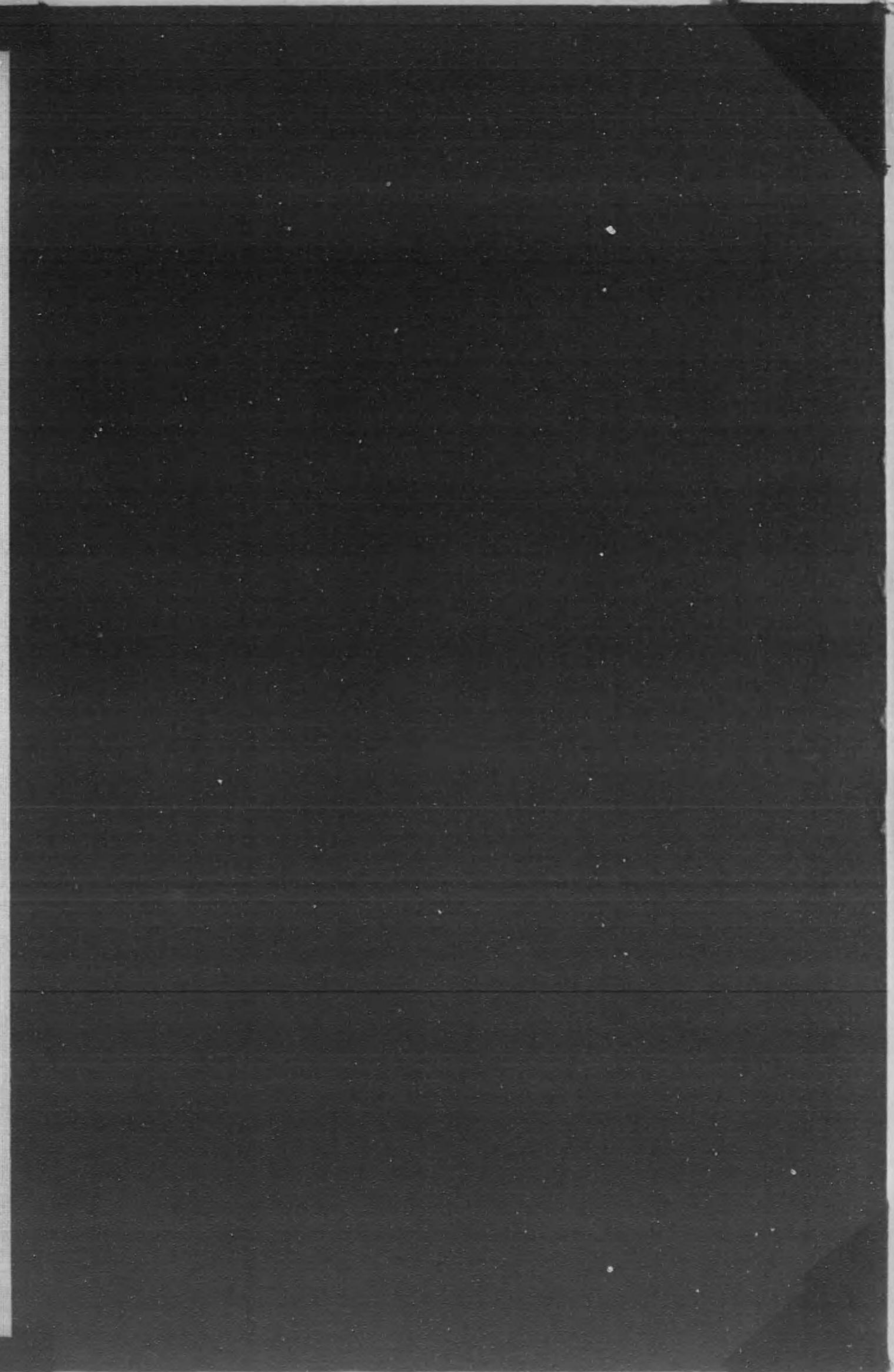


344
154

大正二年

乃雷米案内

所
及
營業家





久留米水天宮

電話六 **毛** 三一番

商 品 料 食 洋 藥 膏 種 藥

八 九 東 一 五 四 丁 下 町 松 本 三 市 米 番 久

銘 製 花 餅 元 膏 滋 養 佳 味

元 膏 造 製 子 菓 洋

番 九 五 二 話 電

善 鶴 町 下 之 瀨 市 米 番 久

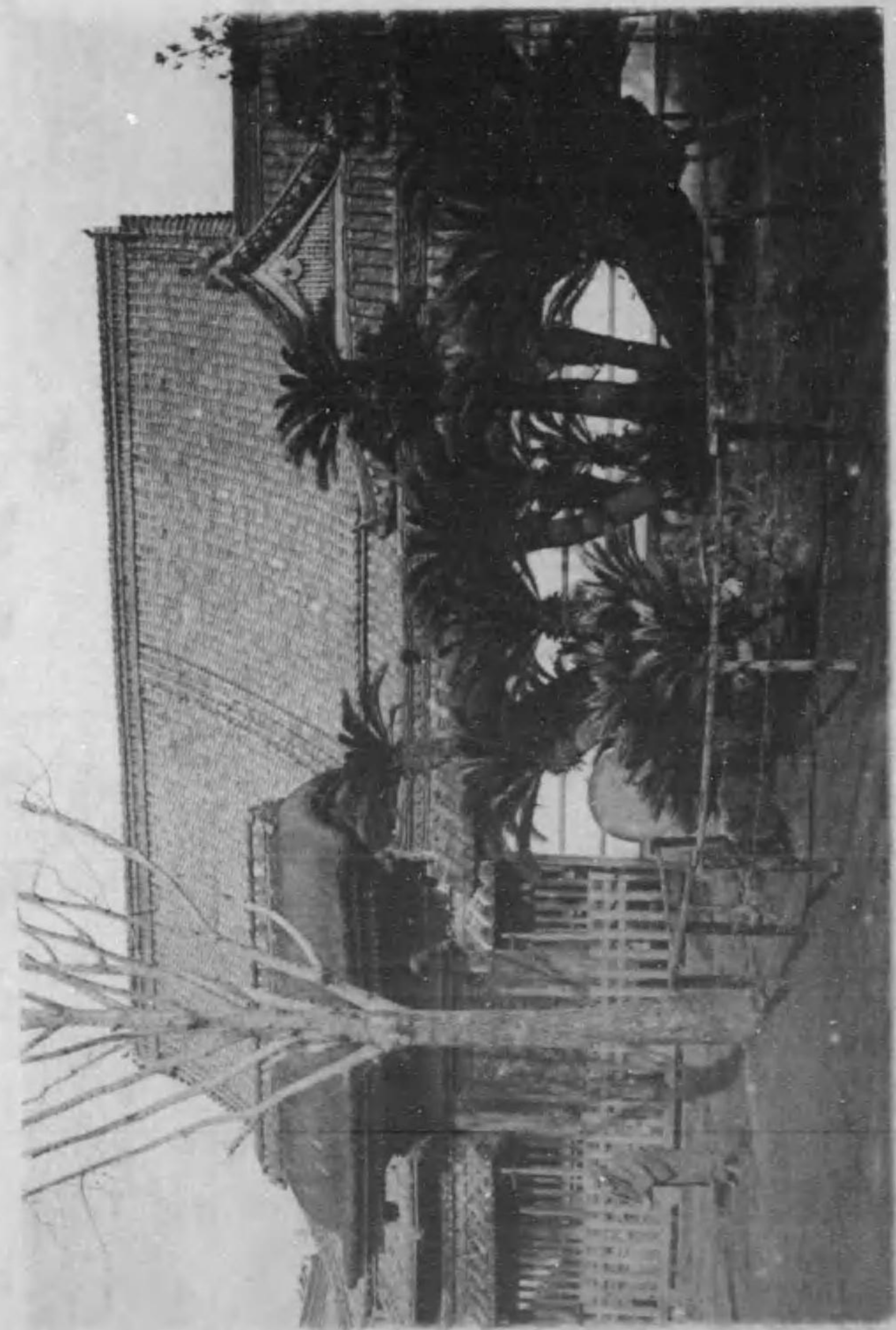
③ **目 種 業 營**

保 拂 海 軍 陸 袋 拭 水 利 用 物 廢 的 巧 村 丸

店 賣 約 特 油 石 桑 金 日 洋

店 高 藏 寬 永 末 町 薰 南 市 米 番 久

番 七 一 七 話 電



久留米梅林寺

入止園
上瀧堂

尺雷米市安川町西小路

床島



山下
裁
隆
所
即太善下山
尺雷米市通町二丁目



確實大勉強

叮嚀

商店

尺雷米市三本松町角

日生堂小間物店

東京 淺草 海苔

種

御膳用海苔
卷すし用海苔
罐味付海苔
入罐

目

罐海苔細煮
詰

大販賣所

尺番米市在島新西空町
二二番地
辻谷商店

九

尺番米市在坂川町六丁目
内外染藍販賣
雜貨商
電話四一五田村九郎商店
(九〇)略電

尺番米市在坂川町五丁目

田岡野小間物店

電話 六三四番

陸海軍拂下品

尺番米市在坂川町七丁目

水拭足袋製造

吉川喜次郎商店

卸商

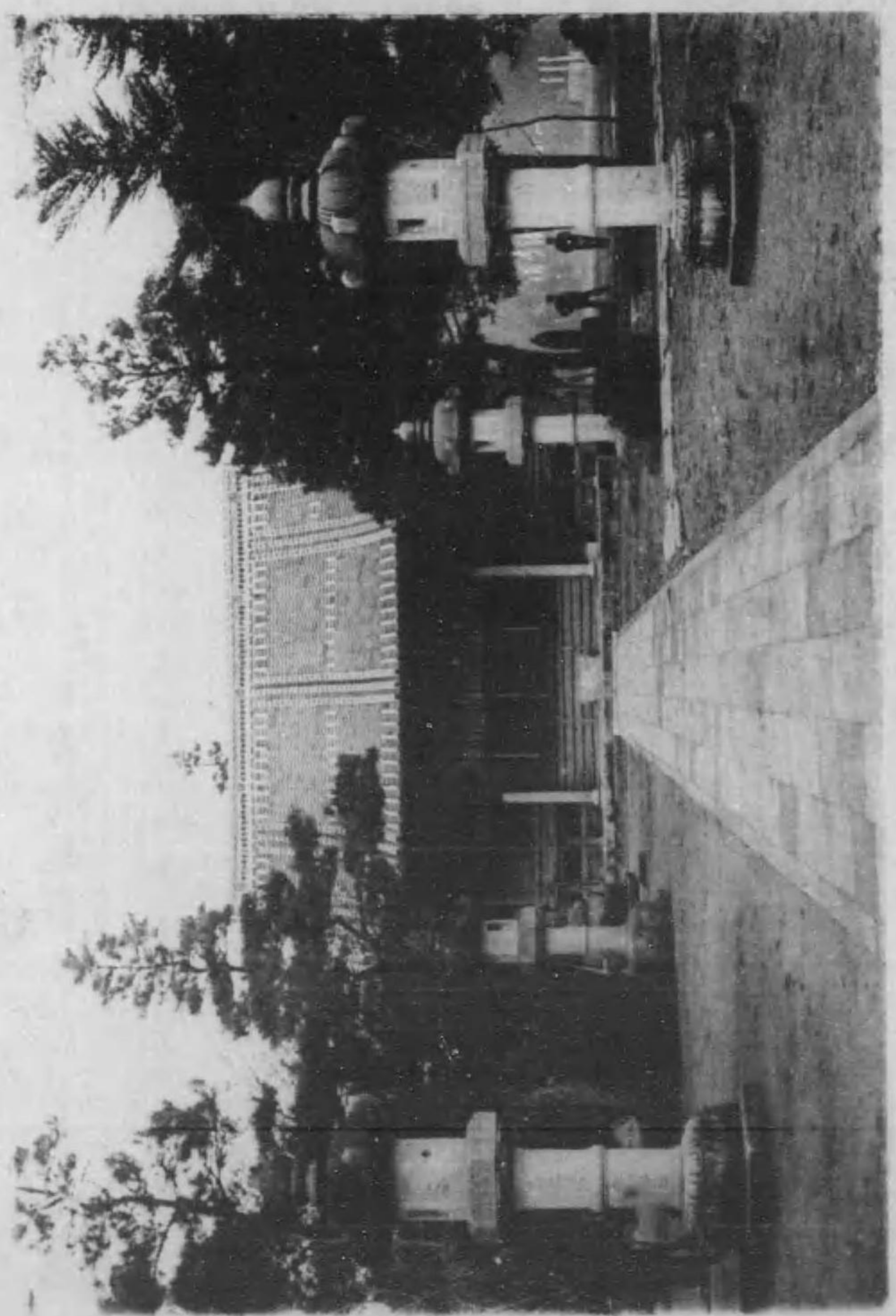
製造 種目

完全復舊款各種
全一ノキ各種
全印判肉各種

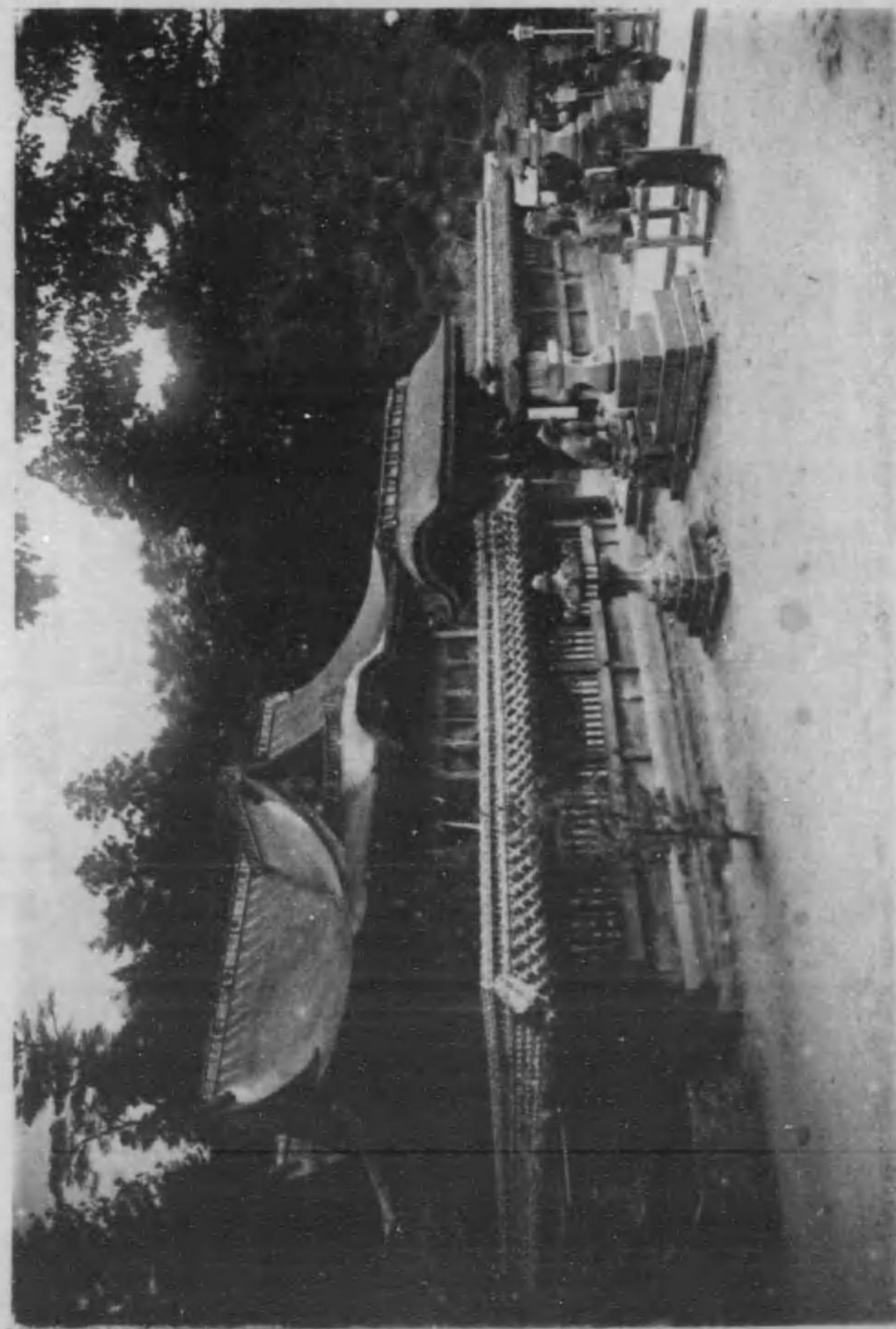
筑紫

商行

尺番米市在外国分百
二十二番地
霍久清藏
販賣店
尺番米市在田所拾番地
商店



久田米産山形社



久留米高良山

栗林洋服

尺番米市通町一丁目

橋本 伊八 洋服店
 尺番米市 三木松町
 敏速 確實

今執行洋服店
 尺番米市小頭町一丁目
 號 確實 廉價

叮嚀飯 田 洋服店
 號 確實 最新流行
 尺番米市今町

中村洋服店
 新式尺番米市
 流行 通町三丁目

光洋服
 尺番米市小頭町三丁目
 號 商 光

原隆洋服店
 御報 七〇三番地
 次第二

馬鉄軌道筋国道四角

尺野米市通町一丁目
 本品は至心造り
 各菓子店ニテリ
花あられ
 卸商
 滋養
 佳味
 古澤常助

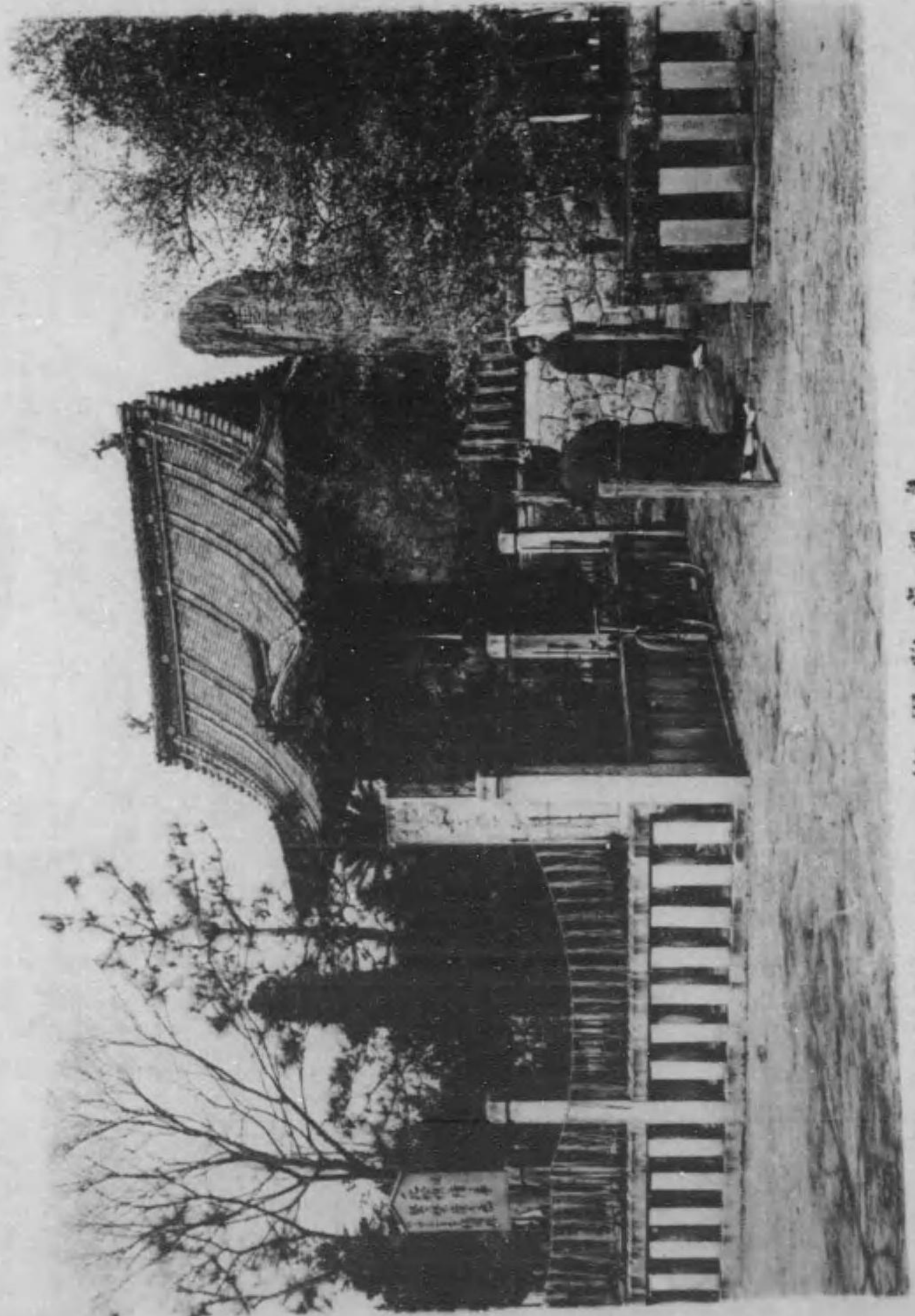
尺野米市今町
 并改良
秋の山葵
 煎餅
 梅花堂

尺野米市榊原町一丁目
大正海んち
 茶用清菓子司
 原口大盛堂

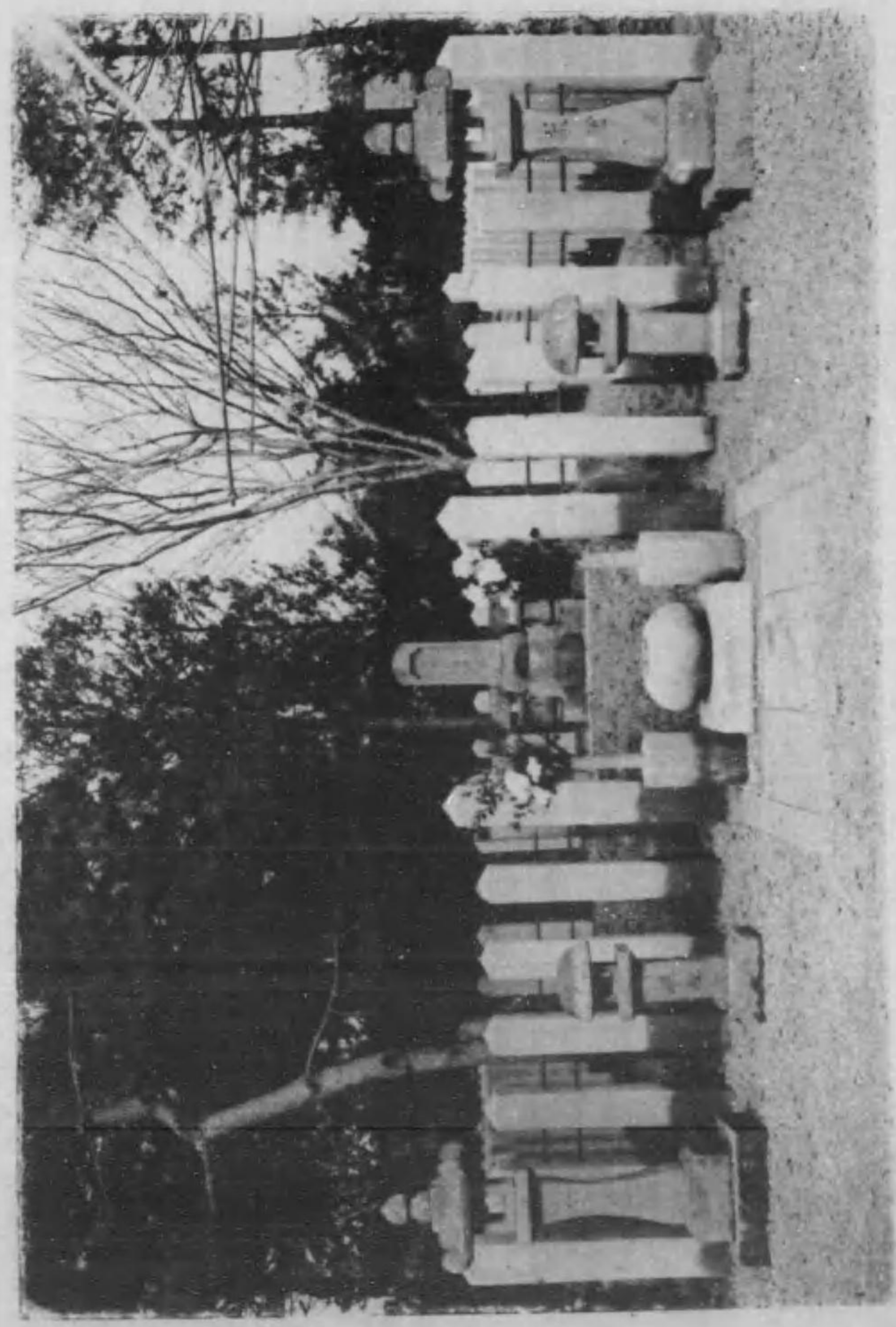
尺野米市今町
二色餅
 一手販
 賣并
 太白白玉
 船益長太郎商店

尺野米市庄島町馬鉄道
洋菓子代理店
 佳味
 并三六海んち
 深川商店

尺野米市京町一丁目
共進餅
 博多
 名産
 并三六海んち
 停車場本通坂本商店



尺野米市榊原町



久留米高山産九郎之石

久留米名産

つぎの力ステラ
製造本舗 細豆町

よしよきやは名産
久留米市芋坂川町三丁目

<p>名産 かすのせん 久留米市築島町 久留米堂</p>	<p>名産 吉金の高良飴 久留米市新町二丁目 吉田商店</p>	<p>佳味 改良煎餅 久留米市外東久留米馬鉄道 古賀松竹堂</p>	<p>商標 イ 名産 大和桜餅 久留米市今町 大梁堂</p>
--	---	---	--

各種
內外帽子卸小賣
尺番朱市通町二丁目
原口藤藏高店

山田藥舖
尺番朱市通町十丁目
販賣

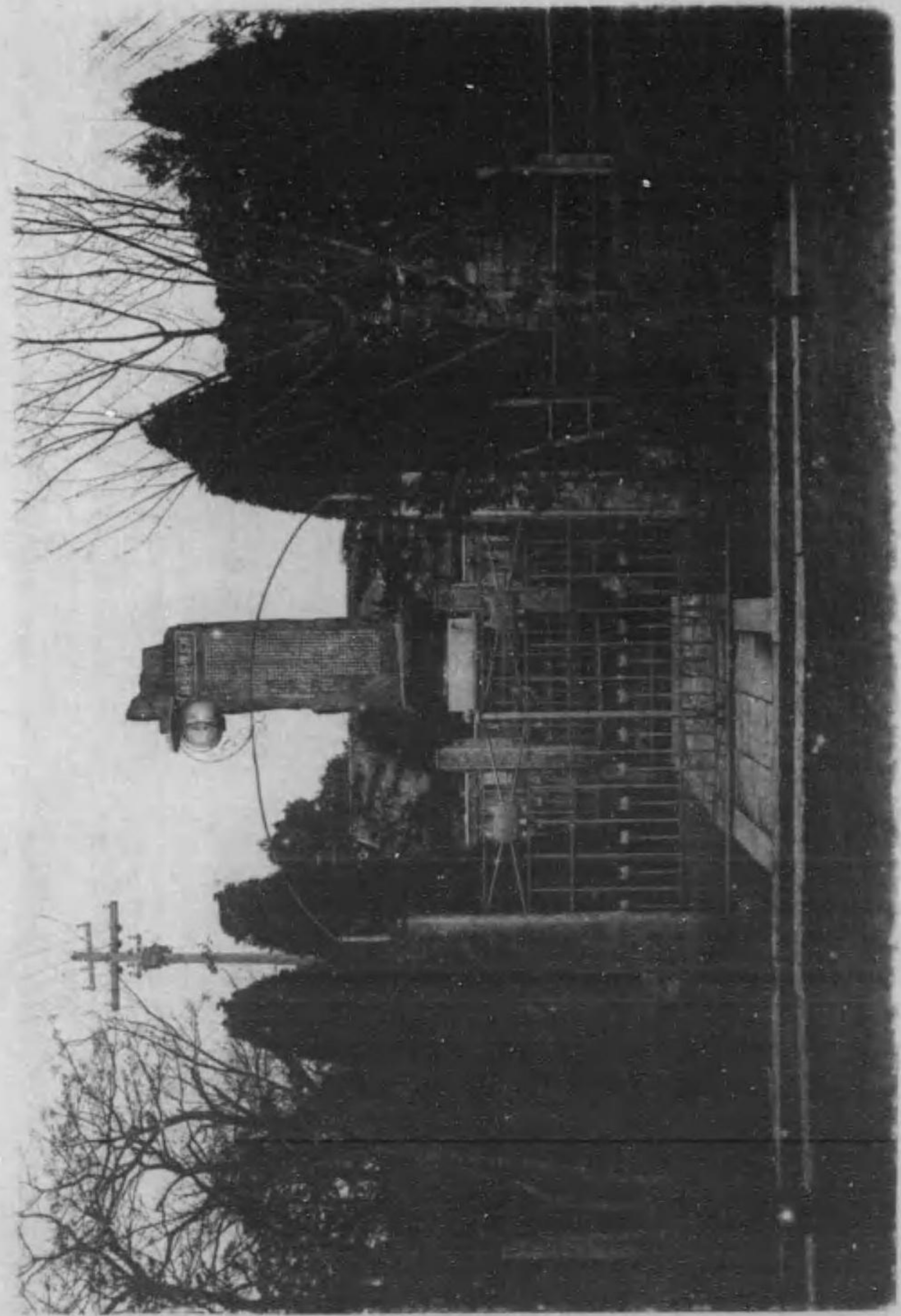
去明治
四十五年
秋大源
習除室
内省引
美御造
并二果
術御買
上給心
結納御茶包商
田中知新堂
尺番朱市通町五丁目

履物卸小賣
并二
製製造元
尺番朱市築島町權藤高店
桐ノク
火鉢

嶄新
尺番朱市朱屋町本通
流行帶履物商
深野高店

中原看板店
尺番朱市篠山町三丁目
塗キンペ
裁判所前

營業處方箋調劑 醫用藥品
工業用藥品 有効賣藥
醫科機械 綢帶材料
目漆料 化粧品
回生堂藥局藥劑師
吉松 徳次郎



尺番朱市井上徳次郎

正直最良、商器、信ヲ用、最大資本ノ

帽、手、リ、マ、ス、類、一、式
太石雜貨店
嶺新流、行、品

尺番米市今町 停車場本道筋

美術各種商
正
井番米特産
藍胎漆器販賣
本店、岡吉三郎、本店前、岡精藍堂

登錄
高標
朱吉元
尺番米市三本松町角
伊之藤米吉商店
元造製

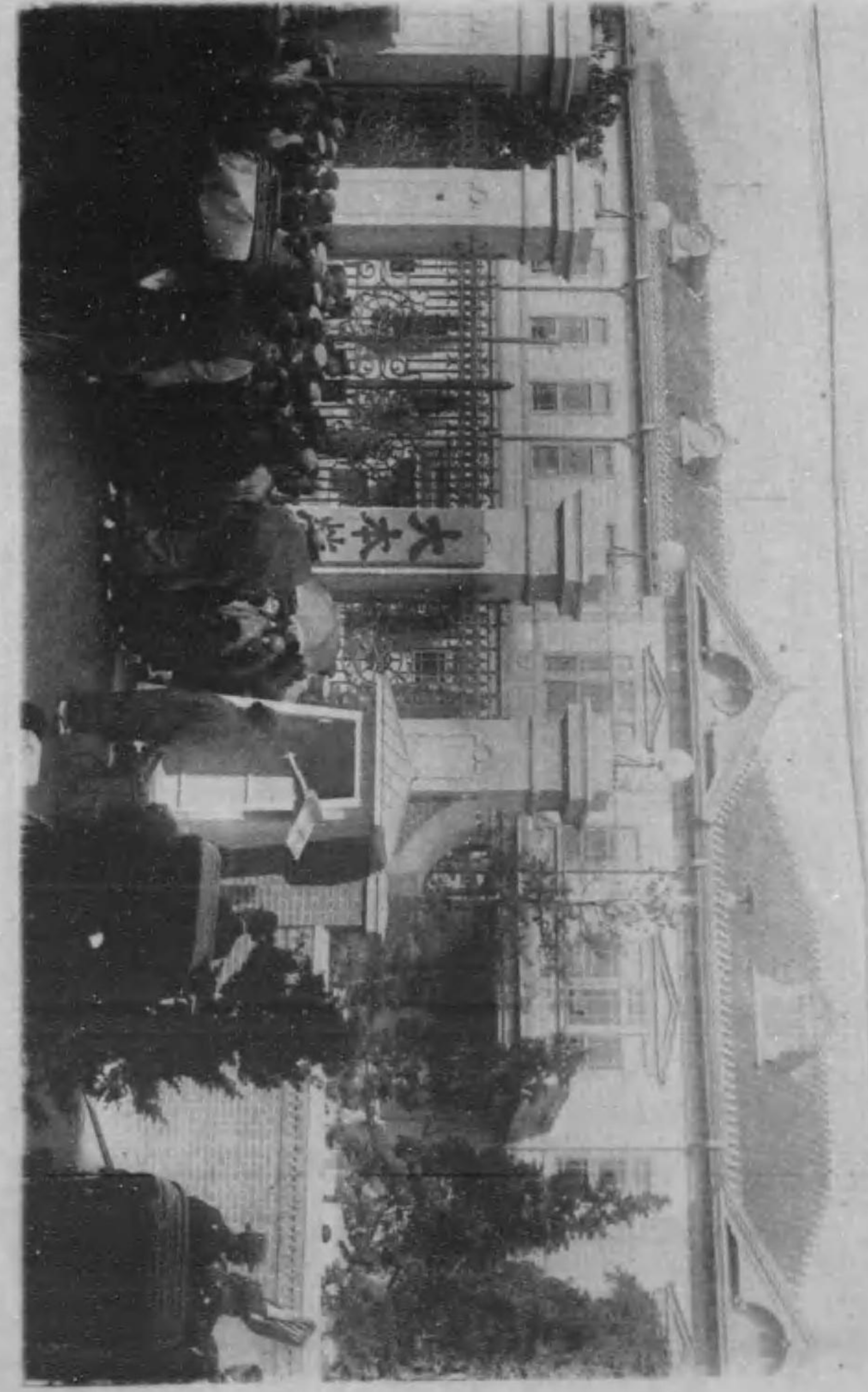
高尚
優美
向井履物店
嶺新
流行
向井商店

并二水掛是袋製造卸元

陸海軍拂下品被服靴華類

確實廉價

尺番米市今町八丁目田口商店賣元



久米中明商店

大田米市軌道通停
番附前

英國製
ハイソク自轉車
クロノメーター自轉車
自松富
保儉証付

ハーマイヤ
六ヶ月以内使用ニ
耐(サリハ)ハ無料
ニシテ取替
六ヶ月以上九ヶ月以
内ハ六ヶ月取替
九ヶ月以上十二ヶ月
以內ハ九ヶ月取替
小賣代金ニ拾円
五十銭

轉車店

登録 大田米市荳板川町六丁目

真久るめらび

商標 電話 二二二番
川原吳服店

登録 各博覽會一等賞金碑
尺通製



ニ宮帽子

商標 諸官衙學校御用達
市目 嘉宮二舖本造製

和今卸商

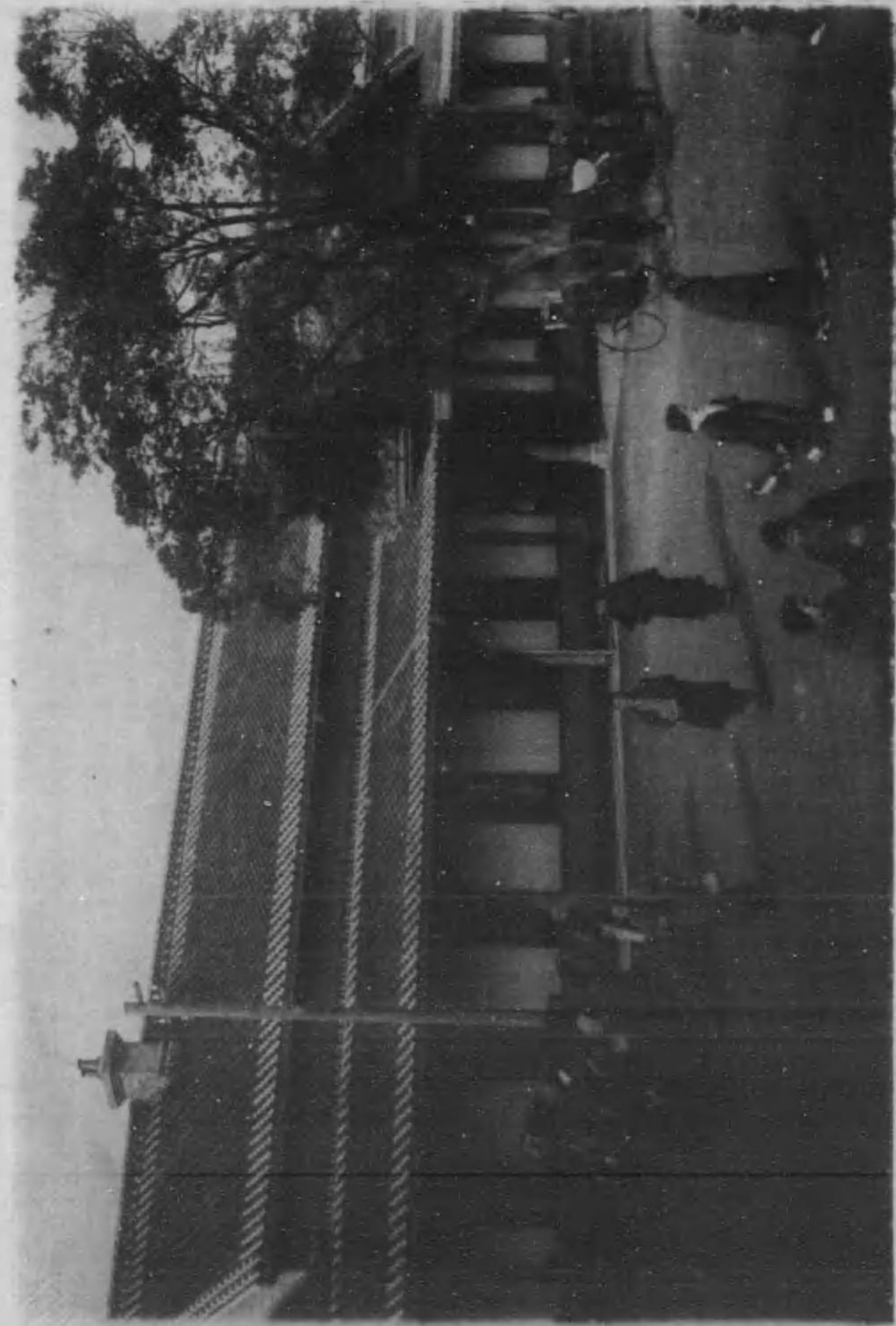
原料品一式
新案一千九百零九年
特許一富士今
大田米市通町九丁目
藤島久吉
電話 一三二番

履物

大物
柳屋
電話五六番
卸
店商永德
町松本三市米番



大田米市卸商司合部



久留米停車場

番七十三 長特話電

つぎや右ひ

町尾米市米番久 店本

名峰屋阿々粉
商店

久留米市新町三丁目

和企洋 雜貨商
最新 ニースママア
各話電
種一六二
流行 ノーブル首冠巻
田中洋物店

商標 日乃出綿
都加原商店
尺留米市通町十一丁目

番六十一話電

しまた右ひ

目丁一町川板葎市米番尺

懷中時計商
桂掛
軌道通小副川商店

尺留米市葎板川町十一丁目

内案業營及所名

名所及營業案内



筑後の位置及地勢

筑後は福岡縣の南端に位し西は筑後川を隔て、佐賀縣に面し東は大分縣と隣し南は熊本縣に接近す亦有明灣を臨む

抑も筑後は獨り本縣が帝國に於て數有なる屈指中の大縣として九州の中央に其位置を占む即ち筑後は本縣たる主要の地に在り筑豊の連山は東方に聳へ河川は筑後川矢部川其他小河各所縦横に流れ地味肥へ豊饒良米を産す此地物産としては三潞三井の清酒八女の製茶久留米緋等は勿論要するに曩に第十八師團の設置及大牟田築港の竣成海陸の便日に進み明治三十五年迄は差程の筑後に於ける交通觀業としては只九鉄の貫通するのみよして微々たる有様なりしが今や筑後軌道創設と共に三潞軌道及柳川軌道の如きを布設せられ直將に九州中央地を貫通し久留米市を起点として日田及大分に至るの大久線は其竣工を期して目下其決議を急ぎつゝあるは不日開通を見るに至らん今尙其位置たるや此發展の現場を見認せんとするは各位の目を睜りて待つべきあり云々

孤

舟

莫正
2. 2. 20
内交

物行流新嶺

店物間小石大

式一品飾頭大婦

目丁一町川坂葦市米番尺

卸
小賣

カ
カ
カ

三新
目町作萬

石
田高

好
多
洗
粉

并
二

肉刊印色各キソイアنداتス

履物

尺番米市通町七丁目

大坂上田梅津商店

卸商

剛刻航

確實廉價



仰判ゴム

尺番米市馬鐵道馬馬町

賣販式一品屬附印ムゴ

堂明公股猪

又リカへ尺番米市馬鐵道有馬町
メツキ
自轉車修膳專門
附屬品
志波修膳所

膳修各キツメニ并車轉自貸

店賣販車轉自中田

價廉 實確

車中田面前場番停道國米番久東道鐵馬外市米番尺

久留米市

久留米市は筑後の西南端に位し東北は三井郡に接し西は三潯郡に面す市傍筑後川は佐賀縣三養基郡と相對して國境を成す大昔田中吉政の嗣子主膳正の居城の頃より漸次街衢を成し元和元年有馬氏の封せらるゝに及び其基礎を擴張し人口漸く増加するに至ると雖も未だ筑後の主府として吾人の知る者少なかりしが久留米の製産として各所方他國に輸出するに及び漸く久留米の名稱を開く處となれり然るに日露戰役後としては事物の發展當所の進連として尙此地に第十八師團の建築とあり榮譽を見に至れり亦交通諸業として業務は益々盛大の域に達し筑後の主府として久留米市は今や中央の都會とありて世人の指を曲するに至れり將た尙市を起點として日田町を通過し大分に至るの大久線は着々其の歩を進めつゝあるは近き將來に於て確かに其現實を見らん事を期す此久留米市が日月と共に其如何に發展するやは吾人の斷じて疑はざる處なり豈又然らん諸官衙としては久留米區裁判所久留米稅務所久留米市役所久留米警察署福岡監獄久留米分監師團司令部久留米郵便局各所に在りて又實業團體會社銀行としては久留米商業會議所久留米絹同業組合久留米綿同業組合筑後改良織同業組合久留米傘同業組合の各事務所及會社の主なる者は鐘紡久留米支店及住友銀行久留米支店十七銀行八坂銀行久留米支店不動貯金銀行九州貯金合資會社牧牛會社久留米電燈會社製蠟會社驛前日本運送及九州運輸會社北野銀行久留米支店起業銀行等在りて今亦漸々八女水電を應用して三井電氣軌道を布設せんごす且下其事務所を當市米屋町に置き不日開通を見るに至らん實に電信電話電氣線縱横にくもわばりの如く延張を成し増々發展巷の域に向ふ人口三万九千と稱せらる

久留米の師團

久留米市が筑後の平野に位し筑後川の右岸に沿ひ尙國の都會を占むるは言語に言ふ迄もなきが大昔の事蹟を踏みし後有馬氏の居城世續とあり往々昔より藩藩に通ずるの要地たるべき九州中央に位するを以て商工業の地としては尤も樞要の地を占む久留米に商工業の道は漸次に開け又土地平野の多きに比較して一層の物産多きに及びぬ然るに日露戰役後としては我國軍備の擴張は益々急を成しつゝありて十二師團より十八師團迄増設するの時に當り軍當局者は師團所在地檢擧するに宮崎鹿兒島佐賀久留米を視察したるに尙久留米市附近は土地平野にして當市は其中央に位置を占め山岳適處に聳へのみならず水質清涼にして人体に適し又物産の出品に富み天然の資相を抱き即ち國家の干地たるべき兵士を訓練すべきは久留米の土地たるにしかず即ち明治四十年愈々其位置を決定し各師團を増設する事に確定せられしより師團敷地としては一市六郡の献納金より買収せしが尙師團の増設せんと否とは土地其物の影響を蒙る繁榮は尠ならず一般人民の之歡迎するの熱誠は殆ど面に溢れたり時に明治四十一年三月より工事に着手し同年十二月に及び大略其竣成を就けるを以て第十八師團は其竣工と共に開設せられる事になり歩兵第二旅團四ヶ聯隊野砲山砲騎兵工兵輜重の各特科兵を總括し師團司令部を三井郡國分村大字西野中に創設し久留米市に當り最も接近距離の處に在りて歩兵第廿四旅團は司令部の東南約一里を隔て、是又三井郡國分村大字國分に設置せられ而して此地は東方高良山の麓にして土地高燥軍馬の衛生上言ふも殆んど詭向の土地にて歩兵第四十八聯隊の兵營歩兵第五十六聯隊の各兵營及び衛戍病院衛戍監獄等の建設より特科隊は工兵營を御井町に置き其他山砲野砲騎兵輜兵營は總て師團司令部を西方に三潯郡鳥飼村字十二軒屋に

建設せられたり又歩兵第四十六聯隊は肥前大村に歩兵第五十五聯隊は同佐賀に在りて孰れも明治四十三年を以て兵員完整を成し未だ日猶淺きの感あれども尙第十八師團の建設後兵士の始めて去る明治四十四年の秋の特別大演習に加はりしが各兵士の勇氣嚴然たる各師團の間に相當る第十八師團大迫尙道師團長閣下軍規の許に部下各將校熱誠なる兵士の訓練に増々其歩を進めつ、附近山岳平野松風の間に四時各兵士の練習たる銃砲喇叭の聲を聞く

久留米の神社及佛閣曆案内

水 天 宮

久留米驛の西五丁瀬ノ下町に在り祭神は安徳天皇、高倉中宮、二位時子の三神を祭れり此社は建久、承久、の頃千代松明神の創建なりと云ふ千代松明神は大和の國石上上布神社の祠官の女にして壽永年間平家の一家と共に安徳帝に扈從し西國に落ち三井郡鷲野原に住し其頃梅林寺に社殿を草創し其後兵乱の爲め兵禍を避けて所々に遷座し慶安三年有馬家現今の處に遷し給ひしより日々參拜者の人絶へず位置は筑後川の川岸にかゝり風景河傍肥洲連山の遠望を眺め相對す川傍附近は一圓の平野にして風景絶佳なり社殿は近年改築せられ艶麗にして此夏期涼遊觀月に摘せり

梅 林 寺

久留米驛西北二丁京町の一隅に在り江南山と号し天和七年有馬豊代移封の時丹波の國福地山の瑞嚴寺を

遷し大龍寺と改む之れ豊氏の父則頼の法諡梅林寺殿たるを以てなり本尊は如意輪觀世音にして代々有馬家の菩提所なりと云ふ境内閑幽を極め樹木閑々として繁茂し筑後川川傍に瀕し避暑に適せり風景雅にして梅林學堂境内に置かれ多數の學僧を擁して教授せしむ

篠山神社と久留米城趾

篠山神社は久留米驛を隔て東北七丁久留米城趾に在り藩祖有馬氏及び中興有馬頼永氏の靈を祭る俗に(御靈社)と稱す境内樹木繁茂し尙市附近一圓の風景一望に眺め遠山肥筑の山岳は筑後の平野を繞り筑後川の長流西方に流れ蜿蜒として赴る屏風山は筑前寶万山と相對し極めて壯嚴を極む風景筆口に盡し得ず春秋の頃花月避暑觀雪等は此境内に杖を曳く者多く茲に入景の勝ありと云ふ即ち古城老松、柳原の曉連、楓岡紅葉、江南曉鐘、箕山秋月紫川煙雨、西山暮雪等はなり末筆に望み城趾畧歴を示す永正年間小竹原を抜きて城を築き篠山城と名づく之れ本城の始めなり其後天正年間毛利秀包之を經營し慶長庚子の亂に秀包西軍に党し兵を發して大阪へ趣く肥前鍋島公虛に乗じて來り攻む時に西軍敗潰す己にして徳川氏秀包を除き田中吉政を移す其子忠政大阪の役に臨み病に罹り臥し出陣遲滯によ。國除せらる後有馬氏に代り二十四万石を呈す子孫世嗣以て維新に至るの間經績に及びぬ

高良神社 玉垂宮

久留米驛より東南約一里屏風山の西南端三井郡高良山に鎮座す筑後四座の一にして祭神は三座なり中神は玉垂の命右は住吉明神左は八幡大神なり此山は上古高牟禮山又は不瀦禮と稱し西北面は肥筑の原野山

を望み眺望絶佳にして四季の風景に冠たり往古數名の豪勇將此に據る又大昔景行天皇九州熊襲御征伐の時臨ませられたる駐蹕あり又繼体天皇貳拾年國造盤井氏此處に據りて逆を謀り南北朝の時西征將軍懷良親王菊地氏と共に屢々此地に陣し給ふ又文明五年以後座主良寛の孫兄弟の隙あり兄良寛は大友氏に弟麟圭は龍造寺に通して互に座主を争ふ小早川秀包の久留米に封せらるゝや座主麟圭と隙ありて秀包之と戦ひ克能わず謀りて麟圭父子を柳原に誘殺す又文祿年間麟圭が季子尊能を座主としてより清僧となり祭典を司る明治四年社僧を廢して神官となせり

神籠石

筑後の奇蹟なる神籠石は高良山々中に在り最も著名噴々なるが高良山玉垂宮の後阜より周圍二十餘町の間高さ凡三尺餘の石疊を廻す其構造殿にして古墳兆の石垣又は國造盤井の宅地なりとも云ふ現今其内に愛宕神社を祭りけり

高山彦九郎先生の墓

久留米驛の東方十六丁寺町通照院に在り氏は上野の國新田郡細谷村の人かり林子平蒲生君平と共に寛政年間の三奇人と稱せらる氏は人とかり驅幹魁偉眼光炯々として人を射るが如く隆準巨に音聲鐘の如く胸中常に不穩の狂熱を蘊み感情極めて酷烈にして氣再び旺する時は眉揚り皆烈けて叱吃風をなし平素劍術を好み修養具さに至る好んで書史を讀み章句を修めず大義に通ずるのみ懐抱あらば即ち吟じ先生草叢の臣を以て王室の衰微を憤慨し東西奔走同走の偉業を行われんとし事をなすの志と違ひ遂に寛政五年聖明

になる逢還長眠し正四位を贈らる菩提所まだ完成に至らぬ當市の有志者之を悲み尙市の元老田中順信氏を始め數年着々奔走をせり

將軍梅

久留米市を隔て東北三井郡宮ノ陣村大字宮瀬宮ノ陣神社の境内に在り正平十四年の秋 後醍醐天皇第九の皇子西征將軍一品式部卿懷良親王菊池新田五條諸將の兵四分を率ひて賊少貳頼久と筑後の國大原野に戦ひ給ひし時本營を此地に置かれ御手づから小木の紅梅を御陣所の前に植ゑ給ふと聽く年を経るに従ひ日に月に幹枝鬱蒼として茂り後世是を將軍梅と稱するに至れり花時には老幹閑々たる間に清香馥郁として掬すべきものなれば文人墨客の杖を曳する者多く尙明治三十三年十一月 皇太子殿下久留米に行啓ましませし時忝くも此地に鶴鶴を枉げさせ給ひて新たに一株の松樹を御手植あらせられ給ふ其幹枝は日月又繁茂し老梅と共に昔日を偲ぶに足る因に曰く此社は往昔西征將軍懷良親王の御陣所にして其始め船曳鉄門武田巖雄森崎正義等有志者相謀り筑後の國矢部の山中に御輿津城を遷し給へる後西征將軍の宮良成親王の靈魂を奉らんとし明治十二年頃三井郡合川村字宮盾の地へ私に一小祠を建て宮を奉祀せしが同二十一年十二月現今の地に移し奉りしものにして毎年十月廿四日は同所の祭典を舉行せりと云ふ

井上傳子の墓及略傳

久留米市の名稱發展の功を生しせし基因たるは實に傳子發明の緋に基づく處にして緋ありての久留米なり傳子は天明八年久留米市通外町に生れ幼時よして新奇の織物を製せんと欲し晝夜精神苦するを顧み

なく思考一方ならず或日白糸を絞りて之を紺染とし其糸を解きて繰り試しに甚だ功妙なり其より人之を見感賞し之を名つけて霜降又は霞織と云傳へ以來傳子發明の功あるを喜び紺織物を盛ならしめんと益々擴張し加壽利と唱へ販賣するに及び日月を経るに従ひ一層の熟練に考究精撰に努め次第に社會の進進と共に他國に輸送する事となれり墓は同業有志者寄附金を呈して石碑を作り久留米市両替町に之を建設す

行在所に充てられし中學明善校

長くも我 明治帝の去る明治四十四年の秋の特別大演習の際御車駕あらせ給ふ縣立中學明善校は久留米市京町に在り本校は最初細川平洲氏の門人なる儒者樺島取梁氏并に有馬侯より本校は抱へられ熊本より來りし左右田尉九郎氏等の經營に成り西依成齊氏の門人なる樋口甚藏氏が資金幾百兩を寄附し始めて天明八年二月創立に着手し同年十一月十二日落成し十二月九日開校となりしものにして維新の際は此校より幾多の勤王の志ある諸士出で明治とかりては仁田原中將松石少將倉富朝鮮總督府司法部長及び比翁助松石丈吉城敷馬氏等其他幾數の名士卒身を出せり尙又明治十年西南役の起るや當所は大本營となりて有栖川宮熾仁親王殿下の入れせられ給ふ光榮ある歴史を有し更に又今回 明治帝 的行在所に充てられし給ふは爾來永久同校の深き名譽摸範とする處なり嗚呼長くも御崩去あらせ給ふ 明治帝 的行在所は同校内に烈氣とし今尙残りけり

五穀神社

五穀神社久留米市外節原村部内即ち久留米市通東外町裏に建設あり神田山成就院圓通寺と号し守夜神を

祭神として稼穀の豊登を護る神なり境内清松處々に散點し又放生池等ありて稍々土地高地に羅り風景佳にして毎年二月十五日其年の豊家製稻水害有無の状況を此の日月に飯を焚きたる貝汁を鉢に入れ冷結カブを生したる色青赤白の三色に變じたる模様を生じ二月十五日に至り神殿前に供へ参拜者の見觀にし其年度の地方稻作水害有無の状況を見ると云ふ亦往昔よりの神慣として面白き事故なり

祇園神社

久留米市篠山町三丁目に在り俗に松山祇園寺と号し祭神(正體は素盞鳴尊)なり毎年六月七日祭典を行ふ境内に神官神部署福岡支署あり

粟島神社

久留米市新町三丁目に在り祭神は少名彦命を安置す此神は人体の諸病全治醫藥祈禱の祖人として禮願祈なり大祭八月三日小祭三月三日月廻祭毎月三日なり

天照大神

久留米市紺屋町に在り俗に(伊勢之宮)と云ふ元十間屋に在りしを寛文六年今の地に遷す又其傍に小社あり月讀神社と稱し兩社共毎年正五九月廿三日に祭典を行ふ

日吉神社

久留米市日吉町軌道に通ずる街道に在り祭神は大山咋命元久留米城二ノ丸内に鎮座ありしを正保四年今の地に遷座あり現今郷社にして神饗幣帛料供進の神社たり大祭は十一月十一日小祭は四月十四日なり同社境内に稻荷神社あり糸丸明神を祭る毎年二月初午の日祭典を行ふ其中間に玉垂宮の願宮あり年一回御行あり

諏訪神社

久留米市芋坂川町三丁目に在り毎年七月十八九日の両日祭典を行ふ

秋葉神社

久留米市櫛原町三丁目に在り祭神はアテツキタカヒコノミコトを祭れり毎年八月十八日祭典を行ふ

山王社

久留米市京町の一隅に在り草創の起原詳ならざれども梅林寺築造の際境内に在りしを現今の地に移たり云ふ

蛭子神社

久留米市芋坂川町二丁目恵比須座前に在りて毎年七月二十日祭典を行ふ尤も商人の大福を祈る神にして料理店營業貸座敷業者の如きは當市は中々同業者多き處にて尤も日暮富時は恵比須時と唱へ門前に盞を

つみみ盛立て恵比須時の惠顔を祝ふと云ふ亦久留米市は又直更の事にしてやかましきことなりと

善導寺

久留米驛の東方二里三井郡善導寺村に在り建久二年聖光上人の創建する所にして上人は筑前香月の生にして天台宗の奥義を通し同人年圓光大師の靈像を迎へ嘉禎五年入滅す初め上人の精舎を經營せんとするや國司草野永平七堂加蓋を建立し建保五年 須德天皇善導寺の勅額を賜ひ建治六年 後宇多天皇より天和元年 後水尾天皇より世に紫衣の繪旨を賜ひ又元徳二年 後醍醐天皇より勅願題として同城浄土最初梵刹及祈禱の二額を賜ひ文政十一年には 仁徳天皇上人に大紹正宗國師の徽号を追建す寛政九年三祖宗堂を慶安二年有馬家洪鐘樓小書院總門拳を建立す實に鎮西の巨刹として四時善男善女の參拜者絶ゆることなし

久留米の寺町

なるほど讀んで字の如く當市に似合ぬ寺院僧侶の多き處にて通町八丁目より東北に入れば向三間兩隣と俗に世人の謠語に唱ふる如く幾多の寺院軒を連ね先づ通町側近きより言はゞ 普照山心光寺 と号す善導寺の末院なり正保三年僧圓守の開創にして宗教は浄土宗なり現今の住職不破登善氏其任なり 其向に

廣岳山宗安寺 と号す乘譽上人の開基にして元和七年の創建かりと云ふ浄土宗善導寺の末寺にして今を去る明治十七年の大風に遇ひ寺殿敗滅破壊に及び傍に一小院ありて永久の間同所へ安置し尊啓を缺

き居しが當時の住職再改築を企て之を再興と壯嚴なる寺殿と也たり現今の住職石橋定善氏其任也其隣に法榮山本泰寺 と号す元和七年の創草にして安住院就の開始なり京都妙満寺の末寺にして法華宗派なり當時の住職中原通應氏にして現今日蓮研究會を起し毎月例會を開きて斯道の蘊奥を究めけり其又隣に

清凉山眞教寺 と号す開基は草野忠利の創始にて其後萬十六代中興の上人普天和尙の寛政三年八月廿三日當時の創建なりと聞く京都東本願寺の末寺にして大谷派眞宗なり當時現今の住職十九世草野顯定氏其任なり 其向に

大願山淨顯寺 と号す京都東本願寺の末寺にして永録二年僧了心今の三井郡内に於て開創し慶長八年田中吉政の命に依り元久留米本町に轉し元和七年現今の地に移せり眞宗にして現今の住職嵩久丸氏其任なり 其向に

光雲山西方寺 と号す善導寺の末寺にして後陽成帝の時御宇念舉和尙の開始なり元柳原に在りしを元和七年今の地に移轉を成す淨土宗にして現今の住職は稻益側善氏其任なり 其向に

光壽山誓行寺 と号す東本願寺の末寺にして慶長八年理等和尙の久留米城内に於て當寺を草創し元和七年春林院殿豐氏公時代今の地に移せるものにして現今の住職阿理道氏其任なり宗教眞宗也 其向に

德光山千榮寺 と号す曹道宗にして開基は筑前洲太守從四位下橘朝臣傑帥玄英大居士にして元和六年庚申年八月當時開山八世從實曼逸大和尙なりと現今の住職廿一世明石台道氏其任なり 其又向に

莊嚴山妙正寺 と号す大昔有馬豐氏公の筑後御入國の時故ありて共に隨行し來り元廣年中に日舜和尙上人の開基なりと云ふ日蓮宗派にして其傍に熊本妙寺の分寺移あり朝夕供教を成し何無妙法蓮華教

ごろつくごんく太鼓の音を聞く現今の住職藤本日照氏其任なり 其隣に

七賢山妙蓮寺 と号す一向宗にして當寺の開基詳かならず過忌帳來歴簿去る明治七年江藤新平の乱に當地に乱入の恐ありと往昔よりの來歴簿を地中に埋没したりと傳聞す四十四年迄の住職妙俊月氏なりしが同氏は同年中死去現今の住職同氏の祖父妙潤生氏なりと聞く 其隣に

持地山正覺寺 と号す元西牟田に在り本尊水引地藏の靈場なり西牟田關白道隆の後裔系綱入道の菩提所なりと天正十五六年の頃家綱入道落城の後ち引地ありて草庵を今の地に結ぶ嘉永二年正月始めて玉潤和尙の創建なり現今の住職持地玉潤氏其任にして宗教は曹道宗なり 其隣に

大雲山妙善寺 と号す往昔豐臣太閤九州へ下り征伐のとき筑後高良山吉見ヶ嶽に陣營をなしたる慶長年間の頃開基佛行院日信上人今の箕尾山々麓に山雲山妙善寺を建立なしたるものと言傳へあるを聞く其當時兵乱に罹り寺殿敗朽し其後慶安年中第五世法蓮院日性上人此地に移轉再建なしたる者なりと爾來今日に至り廿八世三百年己上とある日蓮宗派にして現今の住職津田辨正氏其任なり 其隣に

藤林山善福寺 と号す開基詳ならざれども則譽上人の寺殿創建なりと阿味陀如來の本尊にして現今の住職古賀良念氏其任なり 其隣に

圓妙山德雲寺 と号す藩主春林公の草創にして京都妙心寺の末寺禪徒修學の禪宗派にして梅林寺の支配寺なり現今の住職關無奄氏其任なり

尙同寺院より二十四五間前西方横小路又折れ角に觀世音堂の菩提所あり其より少し隔入りて光明山遍照院 と号す即ち境内には世人の呼ぶ高山彦九郎先生の墓碑此處にあり當院は眞言宗にして當院開基は元祇園寺と号し人皇五十六代清和天皇貞觀十七年乙未眞應法師の草創にして天保十年迄の

間九百六十五年になるに聞くと其頃迄を祇園寺と唱へしが其後の中興開山は快空法師の創立にして天正元年の頃現今の地を開き其頃維新廢藩置縣となりて當時祇園寺たるは神社となり當時の任たる十三世中興の小笹頼雄氏の任時なりしが同氏は遺俗をし寺号を廢して神官となれり此寺は元藩主有馬公の祈願所なりしが後現今の地に移し遍照院と寺号を改め成り來るものにして最も往昔より繼續の寺院なり維新の際祇園寺は神社となり祖像を奉祀して世續住職永遠に現今の住職中原良体氏其任なり 其隣に
 瑞祥山小林寺 と号す元和九年俊良寺和尚の開創にして妙心寺派の禪刹なり禪宗梅林寺の支配寺にして現今の住職關藤門氏其任なり 其隣に
 瑠璃光山醫王寺 と号す京都大覺寺の末寺にして眞言宗派あり當寺開山は權大僧都法印快宜大和尚の正保年中の草創にして藩主有馬家歴代の祈禱所なりしと云ふ本尊は藥師如來及び弘法大師を安置す當寺は其頃藩主有馬侯より録を給はりしとある今に日々參拜者の人絶へず祈禱禮願新なり人体の病症ある者供養をなす者多く又新なり往昔より歷位ある寺院にして現今の住職井上岡寛氏其任なり

日 吉 町

福永山順光寺 と号す同寺は久留米藩祖有馬公の草始に罹る寺院にして往昔は筑後一圓の司冠支配寺ありしが今は維新廢藩置縣と成りて内規漸次廢れ今は其後趾を見るのみ門前側なる古き土塀に二三の黒色かる筋を貼塗せる後の蹟趾を見る往昔より歷位ある寺院なり現今住職なく前住職死夫となりて歴詳ならず時今住職代理加藤常天氏其任なり

宇 扱 川 町

大雄山西福寺 と号す當寺開基は慶安二年忍祐上人にして俗稱和田眞之助安盛氏なりとある貞享二年の草創にして元天台宗なり元祿六年當市大火ありて當寺院記録委皆焼失となり以後不詳にして後元祿七年九月本堂及庫裡等再び草建となりしより眞宗に轉り以來居住不變自今十二世住職大雄念氏其任なり
 香林山冷地院無量寺 と号す藩主豊氏公の時來譽上人萬啓和尚寛永年中の開基にして元三藩郡莊島小路に建立ありしを寛文六年中現今の地に脚庵を結ぶ當寺の本堂改築十九世松林澄善氏及現住職堤善學氏兩名の草創にて落成三十五年の完正とある淨土宗善導寺の末寺なり現今住職堤善學氏其任なり

莊 島 町

崇谷山法雲寺 と号す眞宗大谷派にして開基は元和七年七月有馬春林院公の皈依によりて創建せられ開山順正法師にして俗姓禁裏北面の武士大屋主膳正藤原光次の男也とある大昔よりの經歷を傳來して現今に至る第十一世現今の住職崇谷嗣道氏其任なり
 莊島山本正寺 と号す往昔藩主有馬公前田中吉政の以前封せらるる當寺の開基詳からざれども其頃筑後久留米城主小早川秀包殿其臣高木重行判髮文錄三年四月本堂建立成就之也と印ある當寺の開基は重行法名釋大惠にして代々世續となりて第八世釋譯復氏となり僧氏は元出寺三井郡大城村光蓮寺よりの御入寺ありしが時に文政十三己二月六日當寺は類焼に罹り一字灰燼になりしを再び改築準備の考企を成しつゝありしも熱せず當寺は後藩主有馬公の封せらるゝに及び元通町十丁目五穀神社境内よりし維

新前の御能堂を拜授なしたるものありと大谷派真宗にして第十三世現今の住職本莊慈宏氏其任なり

米屋町

靈龍山妙泉寺 と号す當寺は眞宗大谷派にして開基は八女郡福島正福寺より寛文中藩主有馬公現今の地に移し草創當寺は重榮法師ありしと傳あり尙當寺は境内に清泉の噴出あるを以て始めて寺号を妙泉寺と傳唱なしたりと聞く當寺現今の住職經代十三世國友信英氏は其任にして三百年以上の經歷とある尙同寺は藩主有馬公の笹輪洞の御紋拜授ありて當僧の衣服及び袈裟を揭示ありしこと云ふ

瀬之下町

寶樹山西岸寺 と号す寛永中有慶和尚の開基にして元京之隈に在りしを寛文五年今の地に移す中興開基光譽上人禪龍大和尚なり善導寺の末寺にして淨土宗派なり現今の住職日高清瑠氏其任なり

正蓮寺

と号す東本願寺の末寺にして天元元年南酒見村に於て僧善佐開創し元和年間洗切に移し其後又承應四年今の地に移せり當時の住職蓮原良圓氏其任にして大谷派眞宗なり

瓊門山圓乘寺

と号す當寺は正保二年舊領主瓊林院殿有馬公の建立にして爾來二百五十余年の星霜を重ね堂宇大に破朽せるを以て去る明治廿四年再建を企てしも時期未だ熟せず加ふるに諸種の障礙に依り舊堂宇取除の儘空しく歳月を送りけり去る明治三十三年八月不肖孝正乏しきを住職の任に承けしも亦手を下すの道知らず佛祖の尊像を假に庫裡の一隅に安置し久しく御崇敬を缺ぎ且つ幾多の道俗をして法縁に洩れしめしこと實に悚然慚愧之至りなり嗚呼今や宗祖大師六百五十年の忌辰は明後年に迫れり來

るを聞く以て一大因縁として此際速に本堂を再建し彼佛法要を相營たし當住職上田孝正氏願望に變り仰願くば十方有縁の各位當時の狀況を憐祭し給ひ幾何の御寄附被成度し懇情の至にたへず現今の住職第九世上田孝正氏其任なり

京町

廣布山露妙寺

と号す同寺は日蓮宗總本山靜岡縣駿河國富士郡上野村大日蓮華山大石寺の末寺にして開基は同本山五十二世日露上人なり初代は佐野廣謙氏にして現住職鈴木慈謙氏は第二世の其任なり初めは白山村に在りて露妙庵と稱せしを明治十五年十一月に現今の地に移轉改築を成し全十七年四月八日寺号公稱の認可を得廣布山露妙寺と号し専ら日蓮上人の正義を宣傳しつゝ、あ、猶當山は日蓮正宗第十教區宗務支院なり

海東山日輪寺

と号す久留米市京町一隅に在り大昔城内に在りしを文祿年間現今の地に移し夜明山朝日寺の末院にして妙心寺派の禪徒之を祈る當時の住職は岡部惠海其任なり氏は去る明治四十三年中死去現住職兼務關無庵氏其任なり

大龍山法泉寺

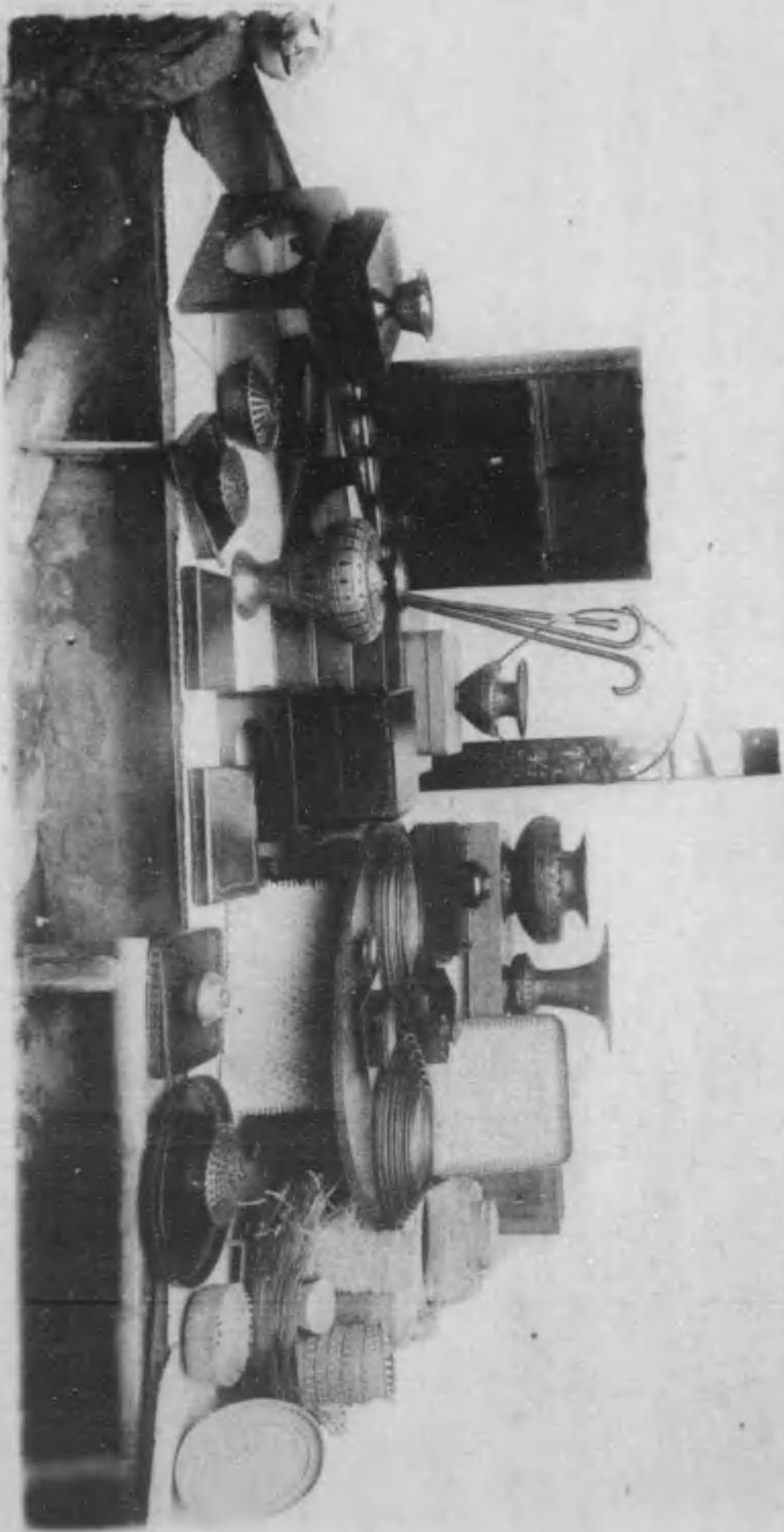
と号す開山は相山玄澄大和尚の元祿年中の創草にして開基は往昔久留米侯藩祖より成る瓊林院殿有馬公の時第二世の州天元益和尚の創建なりと京都妙心寺派の末寺にして禪宗派なり現今住職能丸默笑氏其任かり尙寺に默聲會本部所あり末筆茲に住職能丸氏より拜聴するに梅林寺創立前の寺院にして往昔梅林寺同一の寺なりしと後中興より分立創建となり現今梅林寺の支配寺と成りしものなりと聞く又東海道駿河に月桂寺ありて往昔織田信長戰國の世と稱するの時當時才能智識ある貴僧五名を

火あぶりの獄に處せし時一名の僧飛び走りしを再び捕へ信長明智光秀をして切殺の命を下すも刀折れし
この故障を唱へ光秀宗教を信するに依りひそかに僧を放走せしより前記の月桂寺を創建し禪道の蘊奥
を究めつゝ世續子孫となりて後秀吉敗滅の時丹波の國より有馬公孫後御入國の際貴僧中老の相由玄澄氏
を連れ久留米へ御來居ありて始めて當寺創建ありしと聞く

久留米商業會議所

久留米商業會議所は明治三十三年法規の許に設立せられたるものにして専ら商工業の發達に必要なる法
案を調査し又法規の制定改廢に係る意見を行政廳に開申し或は行政廳の諮問に應答する事ありて常に斯
業の狀況及統計を調査し一般の參考に供ふを研究し之れ實に斯業者の以て商工業を企圖する所以にして
當市商工業者の機關たり

久留米緋 久留米緋は實に久留米の發展基礎にして當市は緋ありての久留米かり久留米の眞たるは吾
人の茲に廣言して疑はざる處かり然るに久留米緋は社會の進運に従ひ今日ありと雖も其創始を遡り見れ
ば實に微々たり、しかのみにして天明年間井上傳子の發明に係り當時僅に地方の需用に過ぎざりしが以
來大塚太造、牛島ノシ等繪緋小緋等を發明ししてより大に發達に促し來り時の藩主又開成法を設けて之
を獎勵し維新後機業者仲買者踵に起り苟も女子ある家は機席の聲を聞かざる事なきに至れり去る明治十
年西南役の時には軍人軍屬の之を購求する者多く爲め粗品を販賣し俄然信用を失墜し明治十三年綠藍
組千年社起りて頽勢の挽回に努め同十六年士族の授産金を以て赤松社を起し織機に改良を加へ精撰なる
製品を出し模範工場として賞揚せられ久留米緋の名稱頗る光彩を加へ來れり同十九年綠藍組千年社を解



久留米製織機

華社製品

一、本社の製品は、品質の優れ、価格の廉宜、と、常に顧客の利益を第一とし、努力して、改良を重ね、今や、全日本に、知られ、愛用されるに至り、誠に、喜ばしいことである。

藍胎漆器

一、本社の藍胎漆器は、美観、耐久、と、常に、顧客の利益を第一とし、努力して、改良を重ね、今や、全日本に、知られ、愛用されるに至り、誠に、喜ばしいことである。

藍胎漆器

一、本社の藍胎漆器は、美観、耐久、と、常に、顧客の利益を第一とし、努力して、改良を重ね、今や、全日本に、知られ、愛用されるに至り、誠に、喜ばしいことである。

製造元

信原倍花

きて同業組合を組織し同三十四年耕織定所を設置し其間變遷を重ね今日の盛況を呈するに至れり

久留米編 久留米編も自下當時に於て殆んど耕と双肩して世人の認むる處となりしが明治九年の創業

に係り當時は僅かに需用者の依頼のみに應じ製機するに留りしが同寺抜川町某の手續編を製品し頗る高評を抱きてより漸く盛んとなり同二十四年編改良會なるを設け専ら之が改良に努め同二十六年編同業組合を組織し愈々營業の發達を起企し以て今日の盛況に至れり

藍胎漆器 藍胎漆器は往昔明和二年の頃勝月平兵衛なる者ありしが京都に於て漆器を業をし妙技を得

て當時久留米藩主遙かに之を本藩に聘して堅地塗の其の名を天下遠隔の地に著すに至りしは之れ創業の始めとす爾來相續きて川崎峯次郎氏に至り世態の一變して維新府藩置縣となりて藩主の國產獎勵方針も亦時に動搖するを免れざりしも川崎氏は當地名譽ある國產の製作を捨て置かさりしのみが愈々日月と共に社會の進歩に伴ひ進んで其改善に努力して明治十八年に至り堅地塗の美點と特色とは悉く藍胎漆器の上

に應用せられ趣味實益両全の漆器は斯くして社會に提供せらるゝにやれり爾來茲に二十有餘年改良に改善を加へ精功微妙成功の域に乘りたるは此近年來の事にして製造者及び專業者も該品の認識需要せらるゝに隨ひ次第に増加し來る形勢にて現今久留米市に於て重なる産を舉れば片原町合名會社の篠原商店

篠山町裁判所前北側の赤松商店京町の山口商店等にして何れも盛に販路を廣布せり就中赤松商店の如きは和傘の製造品質の堅固なるを以て赫々たる名蹟既に世人の認むる處にして而も明治十六年久留米藩士

族授産の爲め有馬家及び政府よりの賜金及び有志者の寄附金を以て創立を成し其後幾多の變改を重ね越して四十一年有馬家の個人經營に移りしものなり此に聽く藍胎漆器は堅くして柔かなる竹の細工を基とし五個の分業法三十七回の加ね季候の關係ありて遅速ありと雖も替手より仕上るの間は四ヶ月以上六ヶ月

の期間を要すると玲理透明器となりて店頭飾るに至る由にて品質と価格は商店に依り多少の差異あれども其二三を擧ぐれば左の如し

- 情圓盆之部一號五、七〇〇四號三、一〇〇八號一、〇〇〇會席膳之部一枚ニ付平木形尺二寸三〇〇立椽尺二寸三、五〇〇椽荒掛九尺三寸三、〇〇〇吸物膳二、五〇〇九盆之部一號三、二〇〇五號二、〇五〇八號一、二〇〇菓子器之部蓋付一號五、五〇〇同四號三、三〇〇蓋無二、三〇〇椽之部吸物碗二、五〇〇菓子碗二、五〇〇瓜洗椽一、八〇〇盃洗三、五〇〇角物之部平木形尺二、四〇〇角椽八寸二、〇〇〇卷貫入二、五〇〇卷貫入壺三、〇〇〇煙草盆筒蓋付二、五七〇文庫一四、〇〇〇廣盆二枚組二六、〇〇〇硯箱一號六、五〇〇盆洗壺三、〇〇〇机四、〇〇〇同二八、〇〇〇花生之部大四、五〇〇小三、〇〇〇ステッキ一、三〇〇〇厘

久留米の製傘 久留米の傘は品質堅牢なると比較的價格の廉價あるに依り世人の認めらるゝ處にして創始の年代は詳かならずと雖も篠山城築造の頃より既に此製造者ありしと云ふが文政年間櫛屋儀平作販賣の行路を擴張し安政元年長崎の常盤屋安兵衛之が輸出をなさんとし當久留米の磯野卯兵衛に謀り卯右衛門長崎に至り傘五千本を蘭人「ディブル」に賣渡す是傘の海外に輸出の始めなり廢藩後粗品乱雜の製品弊害を生したるを以て同有志者大に之を憤慨し當市及附近の郡部に組合を組織し之が改良を謀り大に其効を一變して重要物産の二三位に占む益々繁榮を極むるに至れり其重なる卸商としては通町九丁目藤島久吉通町五丁目吉村利祐三本松町中之丁中川喜次郎通町五丁目渡邊藤作氏等にして各所他國に輸出益々盛大に卸及小賣に光をなす

久留米の足袋 品質堅牢にして世人の嗜好に適し諸國に於ける九州霸王の觀あり初め福山屋運來屋等元治年間つちや倉田雲平氏舊藩の仕立物即三谷松次郎氏に就き明治三年長崎の小川順次郎氏に足袋の

製法を學び同六年開業し同三十六年手縫法を廢し機械の應用製作と改たれ明治四十一年莊島町に蒸

關を据付て原料の製作を計り今尙盛況に至れり亦しまやた石橋徳次郎氏も明治九年此業を起し今や日月と共に繁盛を見るに至りつちや及しまや商店各自動車を私設して來客を案内し益々繁榮を極む其他半坂川町六丁目河原の久留米及び通町三丁目のいよやたびくめやたび中々の足袋の製名多く驚威の至にして益々光彩を供ふ

水掛製足袋 是又常市に於て最も繁向の域に達し其原料たるは陸海軍廢品被服拂下賣却品各種の賣却品の出品を利用し陸海軍廢品を使用し安價を以て販賣し地方へ輸出するは驚くに感ず尙常市は又師團地として各營業者の最も多く就中通町八丁目の陸海軍拂下品各種販賣の田口商店呉服町の田村久次郎商店半坂川町四丁目弓削商店同六丁目吉川喜次郎商店及び南蕪町の末永商店通町十丁目の荒木商店等にして最も著く販賣をなせり

久留米の製菓子 久留米の製菓子としては比較的佳良なるもの稀なれども瀬の下町の鶴善洋菓子製造所のキャンピオン并に細工町つち勘のカスター新町二丁目吉金製菓子店の高良怡通町九丁目古澤常助製菓子店の花あられ築島町久榮堂の餅せんべい半坂川町三丁目の粟屋おこし等滋養佳味にして各地方に名産菓子として輸出販路を日月に擴張し益々盛大の向をなすつゝあり

久留米の製帽店 通町二丁目二の宮詰官術學校の製帽最も品質堅牢最新を成し確實廉價を旨とし地方に知らる其他通町八丁目半田製帽店及片原町江下製帽店等にして孰れも斯業に努力して其功をなせり

久留米の下足店 下足卸店の主なる者は三本松町徳永下足店の大卸日田を材原に控へ最も盛大なる卸店にして次に米屋町深野下足店及三本松町の向井下足店今町松村下足店通町七丁目の梅津等にして男

子の使用撥党郁美斬新なる衣裳を選びて販賣せり尙其他各所に販賣卸店等極めて多く驚感の筆者が枚擧
よ違あらず

久留米の石油販賣店

當市に於て石油販賣店の主なる商店は先づ馬鉄通國武丁のライジングサン
石油株式會社販賣店にして最も品質良油に富み地方への輸出名譽を知らる其他瀬の下庄屋町喜多村の日
本石油株式會社特約代理店のコームリ印の石油又良油にて確實廉價を以て販賣なしつ、あり又軌道通日

吉町停留場前の紐育スタンダー會社石油代理店等最も著く當市の發展と共に益々繁盛を極む

久留米の硝子店

主なる商店としては通町三丁目古賀慶三郎氏建具用の板すり硝子の精功并に各種
鏡販賣通町一丁目平岡のランプ及附屬品并に硝子製器の洋具通町七丁目堤硝子店等にして著く販賣せり

久留米の時計店

主なる時計店としては三本松町高田時計店通町二丁目平田時計店細工町蒲原時計
店三本松町石川時計店通町四丁目松崎時計店先づ主なる商店にして就中元三本松町の宗野時計店は現今
花畑に移轉しあるが久留米市に於ける時計店の嚆矢にして現今店主の嚴父は安正三年維新前久留米藩候
の命を受け營業開始研究に従ひし如き最も履歴ある時計店なり

久留米の清涼水

清涼水としては當市の發達に従ひ漸次其歩を進つ、あるが品質の良否は兎に角例
年暑夏には市内各所にラムネの製造家いちしるしく繁盛を極めサイダーには松本の千歳サイダー及び國
分鶴城礦泉の鶴印サイダー製品繁盛にして各々販路を遠隔地に運びつ、あり

久留米の牛乳

市外西久留米久留米牧牛株式會社の搾乳及中垣牧牛會社(津福村)今泉(柳原)谷口
(篠山町古城下)日永田(國道筋)等主なる者にして久留米牧牛株式會社の社長たるは大石健太郎氏として
片岡氏の經營支配なり最も繁盛の域をなす

久留米の印刷屋

苧抜川町三丁目の吉田如春堂印刷屋通町青木印刷屋岡町香木印刷屋小頭町明照堂
印刷屋等いちじるしく各氏益々日月と共に繁榮を見る就中有馬丁の猪股公明堂印刷屋此主人公は亦中々
の熱心調刻に優秀なるが寝食時を忘れて調刻に身没しつ、あり或時某新聞社員が伺見たるに成程此主人
公は雅人變人少し毛色の變りたる印刷屋主人公なり嗚呼何ぞ各位諸士試に依頼し見給へ

久留米の古着屋 他の市に似合ぬ稀なる繁盛を極める特色を有し通町一二丁目最も營業盛なる所に
して卸店の巨大なるは寺崎喜兵衛通町一丁目山本八平通町二丁目高木廣津上村等にして其他斯業者軒を
連ね枚擧に違あらず

久留米の藥店

主なるものは先づ馬鉄通有馬町の高尾藥店通町一丁目水田藥店今町大石藥店米屋町
梁井藥店三本松町の橋本及伊東藥店通九の水田藥店通十丁目山田藥店通五丁目の熊谷吉松橋本藥店及び
花畑の村上藥店等にして就中村上主人公は又種々なる婦人用の美顔水の製品に試考の萬苦一方ならざり
しが遂に其効を成し美顔水八十種以上の各使用美顔水品を呈し各地方へ販賣の販路新業繁盛の極を見る

久留米の茶舗

人戸の繁盛あると共に茶店も又開業者多く先づ指を曲すれば片原町木屋平藏氏なり
同氏は古來幾十年よりの茶舗にて精撰の製茶に盡瘁努力して茶の良否を考み益々販路を擴張しつ、あり
又魚屋町田中茶舗三本松町三島屋新町喜樂堂等ありて其他小店にして紙上枚擧に違あらず

久留米の小間物店

社會の進歩と共に種々の美飾品多きに及び従て小間物店最も多く先づ三本松
町の星野太平商店同吉武小間物店通三丁目前田小間物店苧抜川町四丁目岡野小間物店通二丁目松本小間
物店等卸店の主なるものにして苧抜川町一丁目大石小間物店同二丁目熊本小間物店同三丁目前田小間物

店同四丁目森永小間物店等にして其他小店に至りては枚舉に遑あらず
 久留米の呉服店 先づ主なる者を舉れば三本松町荒甚呉服店同森新呉服店細工町武藤通二丁目飯田
 細工町武谷通四丁目野田屋同五丁目國武同九丁目北島同十丁目松野同田舎屋細工町大津三本松町角大津
 本店芋扱川一丁目角大津支店同三丁目原田同五丁目福永通五丁目中村等にして就中武藤吳服店の主人は
 又滑稽なる主人公なり

久留米の洋品店 久留米市に在りて頗る高襟の洋物として發展の時に伴ひ余り壯麗なる洋物店は稀
 なるが先づ通二丁目吉武悦次郎洋品店同二丁目松本芳五郎洋物店三本松町田中洋物店米屋町森文洋物店
 芋扱川町一丁目牛島洋物店馬鉄通日吉町均一洋品店等にして日月と共に益々販路を擴張しつゝあり
 久留米の表具屋 久留米藩主有馬侯年代より言ふ迄もかきかき古物換繪書畫掛物嗜好
 者隨て多く是等の基因によりて當市の表具師は又自然に技術の鍛達を究める故益々其成功を顯し先づ主
 なるは日吉町海老名及岡仁一郎東久留米馬鉄通宮原馬鉄通有馬町前田文榮室掛物製作同馬鉄通渡邊表具
 店其他各所大小の表具屋最も多く十年前の久留米にあらず更に一變して益々繁榮を極むる事驚くにあり
 久留米の印刷屋 時勢の進歩は文筆の手掌を採らず石版及活版の如きを應用して營業の増加するは
 自然の時に及ぶは勿論なるが當市は亦他の市街に稀なる處にして斯業者多く市内を週視するに各業務に
 罹りつゝあるが就中片原町觀文社淺野松延山浦廣田高山桑原岡部中村佐々木等にして石版印刷所は田町
 式小頭町一丁目西牟田印刷所にして市内莊島町東堅丁東京石版印刷所は又熱誠なる技術の擧高し
 久留米の寫眞館 師團設置の頃より急劇に臨諸法斯業者の増加益々繁盛を極め斯業界の先途物淋し
 き感なきましもあらざらしが漸次繁隆に向き先づ櫛原町一丁目三光軒は博多三光軒の分館として頗る技

術上の信用を博し今町赤司新町樋口軌道通莊島町瀧同有馬町佐藤同日吉町江上吉富及久留米寫眞館小頭

町瀧上寫眞館等にして各所益々技術上の業務に雌雄を決して熱誠に業務をなしつゝあり

久留米の辯護士 地方裁判所所在地として比較的多数の斯業者を有し斯業者の多きは犯罪訴訟事件の
 ならず處か否や詳ならざれども余り感賞すべからざることなるが何れも有するより幸福なることにして少

し案内せば大石健太郎氏(櫛原町)松田正定氏(京町)久留米實業團で大田渡邊の兩氏莊島町前市長吉田惟
 清氏裁判所側川井正進氏篠山町押山長吉氏櫛原町堤達三郎氏財津森田長濱中村の諸氏等評定高し

久留米の購買組合 馬鉄通日吉町有馬丁に在り日用品米穀其他雜貨の購求會員相互の責任となり
 て會員は最も薄利に諸品を購求するを得最も便益を謀り便利なる組合なり

久留米の米穀商 地方の製作米盛るとに伴ひ從て營業者の販路も他縣に敗を採らざる狀況にて隨
 分盛大なる商店あり就中京町島商店通十丁目江上通九丁目野通四丁目さらしや商店通外町黒岩高木
 角松等主なる商店にして其他各所枚舉に遑あらず

久留米の株式会社 久留米市民が商業の熱心なるは發展の巻にして早く言は(コスイ)のとは大坂市
 民に髣髴たり從て投機心に富みて居る起きては轉び轉んで起る恰も相場師の亂開場裡ある定期所とも
 云ふべき株式会社も市の割合に随分多き處だ通一丁目多賀商店日吉町馬鉄通高田株式会社吳服町久保田商店
 等にして頗る繁盛をなせり因に言ふ定期所にしては此地方へは博多及熊本斗りだから將來此の中央地都
 會たる久留米市に定期所設備の舉ある位敢て空想を抱かすもあるまじき事とかな

久留米の酒店 當市の酒店多きは亦驚可く其基因たるは勿論である先づ附近三瀨郡の各醸造家及び
 三井郡の各醸造所ありて最も近き當市に位置を占め先づ主なる酒店を示せば芋扱川町四丁目大藪孝一酒

店同七丁目三根商店紺屋町三笠商會米屋町角七酒店等扱川町三丁目中川酒店馬鉄通有馬丁青木酒店日吉町彌永酒店通町五丁目首藤酒店同十丁目今村酒店等にて亦料理店と同く大小の酒店恰も夏期の泥田に居る蛙の所々に散乱するが如く實に遇生も當る久留米市街傍近き生物にて時々當市を東西と徘徊するに未だ大小の酒店全戸數を知らず其繁盛を視る是より將來如何となるものか

久留米の藝者 久留米で最も進歩の域に達せしは即ち藝者であると賢しこまる譯でもないが頗る善し惡し藝の有無は兎に角指先を曲しなば熊本博多九州以内他の市街に幾程の集點地有るやは知れども恐らくは久留米の右に出づる所は到底ない位と疑心を起す即ち新町中の丁の新券及紺屋町の紺券兩券番を合せて殆んど二百餘人の人員にして又遊廓内の赤司券合計二百五十餘の口紅先生等が何れも相當の賣行あるとは驚可く毎夜每晚日暮時には不景氣か否や其内底たるはいざ知らねどもゴム輪の車輪に一寸横腰に乗り金の無き國へ行きたいと言ふが如き情風をかし自分別世界の觀をなすは實に筆者の考ふる處なり醉樣諸君へ一々擧げて御照會申す筈なれども木像にて造りたる私にては薩張りわかり申さずお氣の毒の次第なり然れども御案内の職務筆者が盡さぬ譯にも行くまじく責任免れに一寸申上ますと先づ藝の達者なるは新券の於今三吉さんは勿論としてとん助の肥後人句政彌の野狐三次靜枝の舞政彌の品は目下唐津行とか紺券の色白き反對慈路の戀愛學金助改龍の大飲酒恰も男子に髣髴たり手足の強服にして一蝶と共に体格丈夫の甲なり此一蝶口紅先生の特徴はウイオリン芝樂の士官候補生御顔から行けば新券のもこめとんば靜枝万樂彌の口紅先生等よしてなる程もとの先生は千客より字の如くもこめられ線香が澤山もゑ求めにあづかる次に移りましては内藤の内右近左近油屋の小的花山下の伊達奴金水電線柱に似たる若手の身の丈高く且歩行活潑の勝太郎田中内の榮龍の舞ごめ千等の口紅先生一寸美にして客の評定があ

る此位が事で御案内の責任が濟むかとお咎めあらば一時間三本の線香をもやして一本十二錢の焼き賃に候皆さん隨時に御招きありて然る可と心得を申す靜啓云々

久留米の料理店 是又基因とする營業者の繁盛するは餘り喜悅する現象ではないが兎角斯業者の開披せるは一方面より於て遇生の考ふるに時世のなす處久留米の繁向に伴ひなす處あるやは知らざれども斯業者の大なるものを順舉せば先宴會向に適する櫛原町萃香園魚屋町九嘉米屋町九五本店日吉町博集館同九五支店両替町松田屋鍛冶屋町九万日吉町名古屋等にして亦湯屋兼料理店としては日吉町玉水館小頭町一丁目進歩館の鰻飯通十丁目中島京町筑後川河岸なる紫水館馬鉄通高田丁榮松館繩手町凱旋館國道筋國分座の西側なる與水館等にして料理店專業としては莊島青蓮丁山岐屋日吉町馬鉄通西洋料理の菊水、花屋、眞猫の梅月、紅葉亭、辻、櫛原町一丁目八千代、同二丁目江頭亭扱川町二丁目惠比須座前永尾、大野の鰻飯宇の惠比須中島等にして日吉町よ入り満月、金澤、二見、吉村、於多福、一陽亭、山形屋、改心亭、末廣、夜明亭、二見、九安、松樹園、六ツ門に入りて喜笑、菊月、福樹園、明治亭、新玉、寶來亭、満月、井上、川口屋、小松壽、鍛冶屋町福山亭、金丸、千歳屋、喜樂山園等よして實に驚感の至りなり恰も夜間青空を伺ひ四方の小星映するが如く所々に散點して驚然の意なり又精肉販賣店としては鍛冶屋町の丸八牛肉店通町三丁目角隈丸牛肉店等にして生麥蕎麥專業としては有馬丁の西京庵馬鉄通日吉町の東京庵國武丁の銀水園新町二丁目東洋軒の支那温飽等にして其他小なる飲食店は數百軒の斯業者ある其數を知らず實に繁盛を極む

久留米の遊廓 創業の開始は明治廿九年數ヶ月前より久留米の一隅此處彼處と儀事なしつゝありしが遂に同年二月より原古賀町に建設を始め八月に及び完成の時となりしが通路の不便を感し遠客は勿論

である遺憾の至なり先づ建築當時の新盛樓松月樓金花樓晚翠樓高砂樓青木樓福壽樓常盤日本亭改心樓大坂屋壽惠廣對山樓の各樓なりしが當市の發展に伴ひ繁盛をなすは遇生に於ては餘り満足する處ではないが年月を経るに従ひ社會の進歩と共に増々盛大を重ね宏壯たる各樓軒を連ね夜間は尙電燈にて晝の如く今は二十以上の各樓に滿ち繁盛を極む

久留米の完産 是亦筑後部内に原料出品位置を占め即ち三浦八女山門の三郡農家の副業として蘭の耕作盛なると共に従ひ製作品の莖著しく花莖模様入座莖疊表等の製品盛に質佳良にして青草色の光澤に富み製品佳良と廉價にて世人の嗜好に最も熾表の如きは品質堅牢にして永久使用に適し従て製産位置近き久留米市が莖商の多きを知るならん又當然の理に在り亦是に伴ひ疊製作斯業者益々繁勢を極む

久留米の旅館 旅館として先づ主なる者は細工町青々館向替町布屋三本松町撫屋馬鉄通國武丁林松館同有馬丁高砂館及有馬館等にして三本松町松屋通十丁目紅葉館向替町柴田、日進館片原町三國屋今町蛭屋肥前屋通二の田中屋其他驛前各所に位置を占め枚舉に遑あらず

久留米の劇場 惠比須座國分座勝榮座萬歳座の四座にして惠比須座は市の中央芋抜川町二丁目にあり最も最近の改築にかゝる新建廣壯にして四座に冠たり國分座は市外東久留米國道側に在りて人家密接なく同場附近は一圃の畑にして場内新鮮なる空氣の流通宜敷く觀視に適す近來觀客販路寬後軌道にて無貨送迎上車する等營業方法も又最も功新なるを見る勝榮座は余り大ならざれども壯麗にして日吉町勝榮丁に在り淨瑠璃義太夫娘浪花節等の舉行に適する劇場なり亦同所より少し隔て馬鉄通有馬丁に世界館あり活動寫眞の專劇を成す又今町萬歳座は目下改築中なり

久留米の洋服店 師團設置と共に俄に營業者の増加を來し現今同業者の數約五十以上の洋服店ある

に至れり就中米屋町橋本洋服店馬鉄通星子松本洋服店通一丁目栗林平田三本松町橋本猪八洋服店通二の寺崎通九の橋本新町二丁目西頼今町飯田城戸洋服店通三中村馬鉄通東久留米丸山原口常住の各洋服店小頭町に至りては執行本村光延花畑に至り平佐太田の洋服裁縫店一般の連合團體を組織し全般に及び確實なる信用を旨とし益々當市の發展と共に其繁忙を見る或新聞社員日々と市内を廻り見れば何程幾數の洋服店あるも各々其職員裁縫の手術に繁きを極む實に驚可く久留米市の發展なるは吾人の疑はざる處なり

久留米の鉄工場 工業盛ならずと雖も着々其歩に向ひ通十丁目黒岩の鉄工場同堀内鉄工場京町森鉄工場廣津鉄工場是に次ぎ軌道通東久留米配電所前なる徳永製鐵工場の如き益々範圍を擴張し又同工場の主人たる徳永千太郎氏は佐賀縣佐賀郡新北村宇山領九百七十番地に生れ幼年より諸方遠隔の地に東西奔走徘徊し數十年の間千辛万苦千差万別一方ならず數年の間鉄工業務に身没し今や此地に開場し工場と名稱する程もなきが此主人たるや確實と熱誠とを旨とし官衙の請負工事其傍日夜寢食を忘れて新案の業務に盡瘁努力して國益をはかり聖務を開くの志に出で去る明治四十四年二月には新案の衛生と經濟の輕便風呂釜等を新案し亦其のみならず工職に使とする職員手代等を愛撫し貧救人見的にば救護し又一方惡癖に渡るが如き者あらば其筋に届出で直に當市附近の滯留を退治する等又珍たる人物かな

久留米の紡績會社 鐘紡支店擴造巨大なるは三池よして次に久留米鐘紡支店より即ち三池の大率田支店には男女工二千餘名にして一ヶ年約二四六、〇〇〇捆の製品を輸出し輸出販路多く清國上海天津香港に入り韓國即ち朝鮮へ向ふ輸出も漸次増加し來れり又一方内地は近畿四國中國東海北陸地方に續出するの狀況にて久留米支店は篠山町に在り四邊眺望にかゝり空氣の流通新鮮にして篠山神社と相隣し花時の頃は恰も公園内に建設せらるゝが如く觀へ至つて壯麗の地に在り

久留米の自轉車店 主なる者は米屋町筑陽商會馬鉄道の藤島自轉車店、吉町馬鉄通富松自轉車店、東久留米馬鉄通上田自轉車店、三本松町廣島自轉車店、馬鉄通東久留米西、田中自轉車店、及莊島町平野自轉車店等にして其他販賣店兼修繕所筆には盡しがたく足の踏む處を知らず枚舉に遑あらず

久留米の材木店 肥筑豊の材料原一方列車運送輸入及び筑後川に挾ゆる久留米市は隨て營業者の繁盛を見る就中京町の中野同妹尾三安新次主なる商店にして次に東久留米井上中村の材木店等枚舉に遑あらず又水野氏の建築用諸材料の割製所は京町輕便濱に在りて頗る繁榮を極む

久留米の建具屋 當市に於ける師團設置以前迄は意様の建具屋販賣店を見ざりしが當師團設置後の近來は馬鹿に建具屋及び指物細工屋多く開店し障子類茶用盆棚箆筒長持諸器具等の製造及び諸官衙學校等の椅子腰掛テーブル飯臺飯室等の當市各所に製造所甚だ多く恰も蟻の群集するが如く店先に陳列したる製産家具を見るには實に吾人の眼中をなやますに足る

久留米の緋店 久留米緋は本場丈ありて随分緋店の巨大なる者あり先づ第一通五丁目國武緋本店同三丁目本村緋店通六丁目松井緋店通三丁目岡茂緋店米屋町秋松緋店等最も主なる商店にして其他製産物としては各所に販賣店多く未だ其軒數を知らず

久留米の運送店 先づ驛前に於ては久運八坂丸五九州運轉内國通運等主なる者にして東南部へ三浮羽八女三瀬山門の各郡出品輸出の繁隆と外來より來る運送物の輸入頗る近來は盛なる狀況を見るに至り就て筑後軌道は當市及浮羽郡吉井東方保木間に着々日々貨物運送しつゝ、あるも尙久留米の繁榮に基き別に記載するが如く近き日月の間に大久線の完成開通をなさば亦如何に繁榮をなし一層の光彩を添ゆること遙か疑なき處なり

久留米の銀行 主なる銀行としては片原町元六十一銀行今は一變して佳友銀行久留米支店とあり(前の六一銀行)三本松町十七銀行久留米支店八坂銀行久留米代理店東久留米馬鉄通北野銀行支店久留米貯蓄銀行及通町一丁目不動貯蓄銀行久留米代理店及馬鉄通有馬丁九州貯金合資會社等にして住友十七八坂九州貯金合資會社及び北野の五行に付ては地方何れも金融の主要と重視せらるる不動貯蓄銀行は一種の興味ありて一般世人の觀迎を受けり尙又九州貯金合資會社は創立未だ淺きに及も内記配當金の多きに基き會社及加入者双方の便宜に従ひ益々成功を顯著し現今盛況を呈し遠隔の地に各支店を設置しつゝあり

久留米の新聞 當市の新聞社と言へば久留米の新聞歴史は随分複雑なるもので意外なる新小聞とゴロツキ記者のもつる所にし當市に比較的多きこと人心胸中に感抱をなす先づ第一通一丁目の九州毎日新聞社同社は竹下政次郎氏の經營になり又筑後新聞は莊島町馬鉄通に在りて熊本九州日報の支社にして無休刊の發行にて其基礎鞏固に従て漸次信用を來せり亦吳服町に去る明治四十五年四月よりの創立西海時報社あり同社は政友會派の機關なるとすべき社にして押山長吉氏社長にして其任なり日々の紙數發刊益々成功の域に向ひ漸次信用を蒙るの時に來れり亦旬刊としては馬鉄通の久留米新聞川原田經夫氏亦月刊として原古賀町の元滑稽新聞を改題して宗教新聞と改名し山田素川氏其任たり亦紺屋町の筑後日の出新聞ありて江口文吉氏其任なり各社共に盛氣を吐きつゝ支局支社としては福岡日々の莊島九州民報及京町の九州民友孰れも信用事務に従ひ別に莊島西堅丁に南筑廣告社ありて各新聞の廣告事務を採りつゝ、ありしが同社多く就中九州民報社の如きは去る明治四十五年春衆議院議員選舉頃迄は益々と基礎擴張しつゝ、ありしが現今は何處にあるや恰も老盲の杖を離れるが如く没滅し今だに其影を見ず其任たる前途有望の氏は實に遺憾の至りとす時に當市は目下發展の二字に許くと雖も當局者遇生文筆を採るに机上に掛り頭肩を覺へ

枚舉に違あらず當市の漸く發展の時に當り各新聞社の多きは當市に於けるは余り云々尙其内底を探り
程細微に之が内様を檢舉するの域に及得ざるも各發刊と共に永續するやば將來注目をする處にして其
實各新聞社の會計部の調査なすに至らば亦云々

久留米の植木商 筑後重要物産の一部にして久留米附近地方三井郡八軒屋及十二軒屋植木の盛なる
こと今更に言ふ迄もなきが植木屋としては随分遠隔の地に聞くある就中東久留米赤司廣樂園の如きは最
も名稱高きものにして春夏秋冬に爛熳たる花園絶ゆることなく内外來の士は遊觀に杖を曳く者多し

久留米の製靴店 當師團設置後としては諸官衙の設立多きに及び各委員の増員繁く從て製靴販賣斯
業者多きに及び營業者としては益々一層の精皮を撰び製靴高尙なる物を製作し就中今町佐野製靴店の如
きは永久の製靴に従事する商店にして益々忙殺を極む日吉町に至りて權藤商店目下日田町に出張店を設
け又中村商店及三原馬具店馬鉄通は小林商店兩替町に荒木商店等益々市の盛大なると共に斯業の進歩を
來し各店製靴堅牢郁美の二点を主として製作に従事せり

久留米の洗粉屋 是又市に似合の同店多く其實品は同一か否や知らざれども餘り名稱を付したる洗
粉販賣店多く就中新町二丁目の長崎屋洗粉同三丁目の博多洗粉吳服町のうぐいす洗粉等抜川町五丁目井
上洗粉店等にして各商店共に益々販路を各地に擴張し其輸出高實に驚く可隆盛を極つゝあり

久留米の砂糖商 是又大に卸小賣の各商店販路を廣めつゝ其主なる者は三本松町上野利兵衛商店通
八丁目堤商店同六丁目鹿兒島商店等尤も繁榮なり

久留米の肥料商店 先づ主なるものを舉ぐれば馬鉄通繩手多木肥料會社の印度油粕肥料及馬通東久
留米津島商店及南薰町櫻印肥料販賣黒岩商店菊印肥料商店等にして益々忙殺を極めつゝあり

久留米の石炭商 主なるものは就中繩手末次石炭商店及京町の桑野藤川石炭商店繩手町椿原石炭商
店等にして凡鐵線の輸入運送近きにありて頗る各商店共繁榮を極む

久留米のメリヤス店 腰卷の販賣店主としては先づ通町九丁目藤島メリヤスシャツ類の卸店とし
ては最も繁榮にして細工町丸尾支店を設備し益々確實廉價を以て販賣をなせり今町大石商店等にして益
々盛大を極む

大正二年二月十四日印刷
大正二年二月廿一日發行

(定價金參拾錢)

福岡縣三井郡國分村九百八十四番地
著作兼發行者 平 田 辰 次 郎

福岡縣久留米市苧拔川町七十四番地
印刷者 山 浦 嘉 四 郎

福岡縣久留米市苧拔川町七十四番地
印刷所 山 浦 崇 文 堂

福岡縣三井郡國分村九百八十四番地

發行所 新 行 社

344
154

優美

高尚

吉
吳服 甚
純

流行

新新



終